

令和元年度
山口県学力定着状況確認問題
結果について



令和元年 1 2 月

山口県教育庁義務教育課

目 次

I	実施概要	P	1
II	教科の問題に関する結果	P	3
1	小学校		
(1)	国語	P	3
(2)	算数	P	8
(3)	社会	P	13
(4)	理科	P	17
2	中学校		
(1)	国語	P	21
(2)	数学	P	25
(3)	社会	P	29
(4)	理科	P	33
(5)	英語	P	37
3	設問別正答率一覧	P	42
III	児童生徒質問紙調査の結果	P	58

【データの処理について】

○各学年の実施人数について

- ・各学年の実施人数は、教科の問題及び質問紙を実施した児童生徒数の最大値を示している。

○平均正答率の算出方法について

- ・各教科の平均正答率は、問題を実施した全ての児童生徒の解答結果から算出している。
- ・学校の教育課程上の理由等により一部の問題を実施していない児童生徒についても、全体に含めて算出している。

I 実施概要

1 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

2 実施期日

令和元年10月23日(水) ※学校の状況に応じて、10/21～10/31の期間に実施

3 実施対象及び実施内容

学 年		実施人数	内 容 (時 間)	
小学校	第4学年	10,839人	国語、算数(各40分)	及び質問紙
	第5学年	10,859人	国語、算数、社会、理科(各40分)	及び質問紙
	第6学年	11,058人	国語、算数(各40分)	及び質問紙
中学校	第1学年	10,426人	国語、数学(各45分)	及び質問紙
	第2学年	9,992人	国語、数学、社会、理科、英語(各45分)	及び質問紙

4 教科の問題について

(1) 出題内容

○以下の①、②による総合的な問題とし、記述式の問題を一定の割合で出題する。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

○問題は、調査実施時点までに学習していると想定される範囲とし、問題の程度は、対象学年までの学習指導要領を基準とする。

(2) 平均正答率

①小学校

	国 語	算 数	社 会	理 科
第4学年	59.1%	57.8%		
第5学年	57.4%	55.1%	57.3%	54.1%
第6学年	71.9%	51.5%		

②中学校

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
第1学年	61.3%	60.0%			
第2学年	50.1%	55.0%	44.9%	49.8%	56.6%

5 質問紙について

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容を問うものとする。

6 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的・基本的な内容を問う問題については、概ね成果や改善傾向が見られる。
- 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や、条件に沿って自分の考えや根拠等を記述する問題については、依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題
小学校	国語	○基本的な漢字を正しく使うこと ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること	●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと ●目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書くこと ●目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと
	算数	○同分母分数の減法の計算をすること ○数量の変化に着目して、その様子を表にまとめること	●仮分数の大きさを単位分数のいくつ分で表すこと ●比較量とその割合から、基準量を求めること ●必要な数値を抽出して、値段の差がA店の値段の10%にあたることを式で表すこと
	社会	○スーパーマーケットの工夫について理解すること ○昔の人々の使っていた道具を理解すること	●等高線の名称を理解すること ●日本の北方領土について理解すること
	理科	○物の重さについて、物の形や物自体の増減とを関連付けて理解すること ○温度によって変わる水の姿を理解すること	●飛行機が飛ぶ距離について、一つの実験方法とは別の方法を考えること ●星や星座の見た目の位置の変化について、推察すること
中学校	国語	○文脈に即して、適切な語句を選択すること ○内容を的確に捉え、必要な情報を取り出すこと	●伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと ●表現の意図を理解して説明すること
	数学	○計算のきまりにしたがって計算をすること ○表から読み取った事柄を的確に評価すること	●基準量を基に比較量を求めること ●事象と式の対応を的確に捉え、文字式の成り立ちを説明すること ●判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること
	社会	○人々の暮らしと雨温図を関連付けて選択すること ○太閤検地と刀狩を兵農分離と関連付けて理解すること	●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明すること ●正長の土一揆の意義について複数の資料をもとに適切な語句を入れること
	理科	○音を高くする条件に合う実験方法を適切に選択すること ○化学式を見て単体か化合物かどうかを判別すること	●グラフから物質の密度を読み取る方法を説明すること ●資料を活用して火成岩の特徴から岩石の種類を判別すること
	英語	○日常的な話題について、情報を正確に聞きとること ○基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うこと	●文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くこと ●聞いて把握した内容について、適切に応じること

II 教科の問題に関する結果

1 小学校

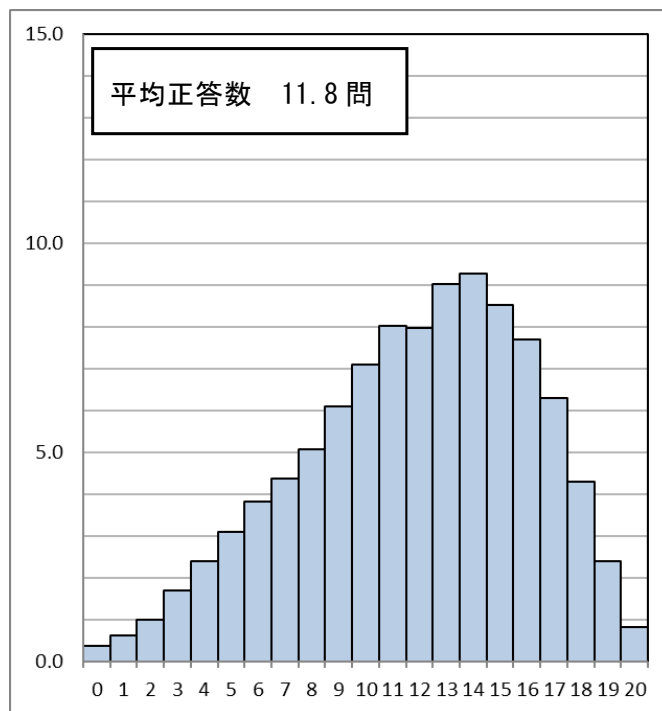
(1) 国語

【第4学年】

実施児童数	10,839 人
設問数	20 問
平均正答率	59.1 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	3	49.4
	書くこと	4	57.3
	読むこと	3	54.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	64.2
評価の観点	話す・聞く能力	3	49.4
	書く能力	4	57.3
	読む能力	3	54.2
	言語についての知識・理解・技能	10	64.2
問題形式	選択式	9	68.8
	短答式	8	59.9
	記述式	3	27.8

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

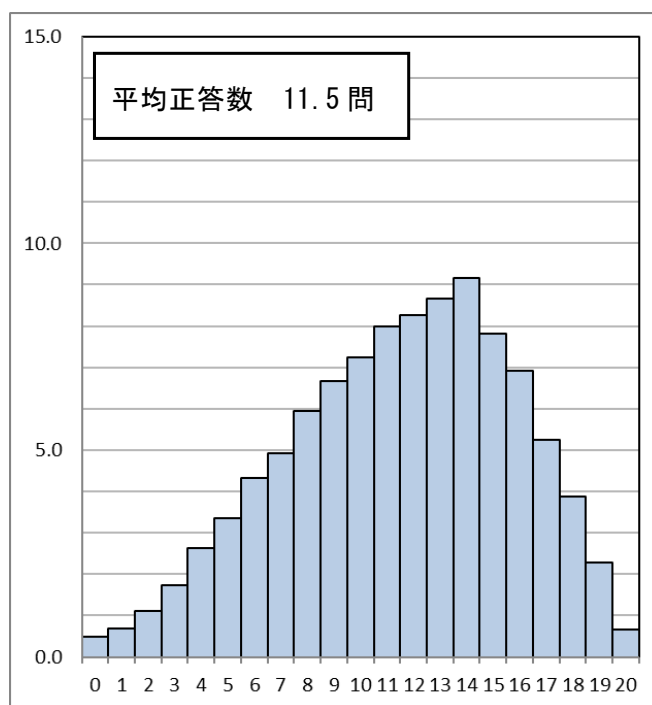


【第5学年】

実施児童数	10,844 人
設問数	20 問
平均正答率	57.4 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	3	48.0
	書くこと	3	62.4
	読むこと	3	55.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	59.0
評価の観点	話す・聞く能力	3	48.0
	書く能力	3	62.4
	読む能力	3	55.6
	言語についての知識・理解・技能	11	59.0
問題形式	選択式	12	59.2
	短答式	5	67.4
	記述式	3	33.3

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

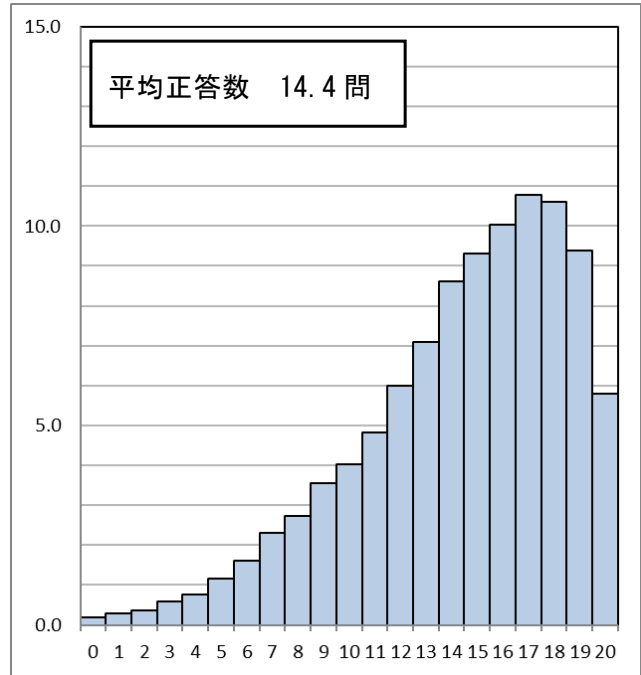


【第6学年】

実施児童数	11,058 人
設問数	20 問
平均正答率	71.9 %

正答数分布グラフ（横軸:正答数〔問〕、縦軸:割合〔%〕）

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	3	62.0
	書くこと	5	74.0
	読むこと	3	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	76.3
評価の観点	話す・聞く能力	3	62.0
	書く能力	5	74.0
	読む能力	3	65.0
	言語についての知識・理解・技能	9	76.3
問題形式	選択式	12	75.8
	短答式	5	75.9
	記述式	3	49.7



【結果から見られる成果と課題】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことについて、相当数の児童ができています。
 - ・「覚ます（さます）」（小5¹一4：94.5%）
 - ・「快適（かいてき）」（小6²四1：96.1%）

- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることについて、相当数の児童ができています。
 - ・「さるも木から落ちる」ということわざの使い方の例として適切なものを選ぶ（小4¹三：83.1%）
 - ・「七転び八起き」ということわざの使い方の例として適切なものを選ぶ（小6⁴四：82.6%）

- 目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書くことについて、課題が見られる。
 - ・【図書だより】に書かれている言葉を使って書く（小4²六：18.0%）
 - ・【調査の内容と結果】の中から言葉や文を取り上げて書く（小5²三：48.5%）
 - ・【調査の内容と結果】二つの段落の両方から言葉や文を取り上げて書く（小6²三：51.4%）
H31小6 全国調査（県平均）33.5% 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」

- 目的や意図に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくむことについて、課題が見られる。
 - ・資料の中から言葉や文を取り上げて、書かれている内容をまとめる（小4³三：23.9%、小5³一：27.9%）
 - ・疑問に思ったことの答えになる内容として適切なものを選ぶ（小6³一：48.1%）
H31小6 全国調査（県平均）45.1% 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくむ」

- 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことについて、課題が見られる。
 - ・「そこで」を使って、一文を二文に分けること（小4²五：19.4%、小5¹七：26.1%）

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

※ ○は成果、●は課題を示している。

国語 成果や改善傾向の見られる問題例 【小学校4・5・6年生】

(小学校6年生) **4**四

○ ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに成果が見られる。

4 四 山下さんは、【インタビューの様子】の中の「七転び八起き」ということわざの意味を調べて、ノートにまとめています。次の【ノートの一部】の に入る例として最も適切なものを、あとのアからエまでの中から一つ選んで、記号で書きましょう。

七転び八起き

○意味 ①何度失敗しても、あきらめずに立ちあがってちよう戦すること。
 ②人生のうきしずみがはげしいこと。

○使い方の例

ア 山田さんと田中さんは、いつも仲がよくて、気が合う仲間だね。七転び八起きだね。
イ 同じ作品でも、見る人によって受け取り方はいろいろあるね。七転び八起きだね。
ウ もうすぐ卒業式だね。あっという間に、月日がたったように思うよ。七転び八起きだよ。
エ 運動会のダンスはなかなかうまくいかないけれど、がんばろう。七転び八起きだよ。

【正答】エ

正答率：82.6%

国語 課題の見られる問題例 【小学校4・5・6年生】

(小学校4年生) **2**五

● 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことについて、課題が見られる。

林さんは、読み手に伝わりやすくするために、【図書室だより】の の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には、「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで、」に続く五文字を書きましょう。

本を借りることが少なくなった理由の中に、「どんな本を読めばよいか分からない」という回答があったので、たくさんの本を読んでいる田中さんと古田さんに本の選び方について聞いてみました。

【正答】 ありました（。そこで、）たくさん

正答率：19.4%

(小学校5年生) ③一

- 目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られる。

【ノートの一部】の <input type="text" value="あ"/> に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。	
【ノートの一部】 ① 山口県でパンが作られるようになったのは、 <input type="text" value="あ"/>	
〈条件〉 <ul style="list-style-type: none">○ ぎ問に思ったことの①の答えになるように書くこと。○ 資料から言葉や文を取り上げて書くこと。○ 三十字以上、五十字以内にまとめて書くこと。	【正答例】 江戸時代の終わりごろ、戦争のためほぞんができて持ち運べるような兵隊用の食べ物が必要だったため。

正答率：27.9%

(小学校6年生) ③一

- 目的や意図に応じて、文章の内容を的確に自分の考えの理由を明確にしながら読むことに課題が見られる。

【ノートの一部】の <input type="text" value="あ"/> には、疑問に思ったことの①の答えになる内容が入ります。その内容として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選んで、記号で書きましょう。	
【ノートの一部】 ① にぼしの出汁には、 <input type="text" value="あ"/> という特ちょうがある。	
ア あっさりしていてどんな食材とも合い、味を引き立てる。 イ かおり豊かで、野菜料理によく合う ウ 風味が強く、出汁をとった後の食材も食べられる エ のうこうで豊かな味わいがあり、野菜料理やみそと相しょうがよい	【正答】 エ

正答率：48.1%

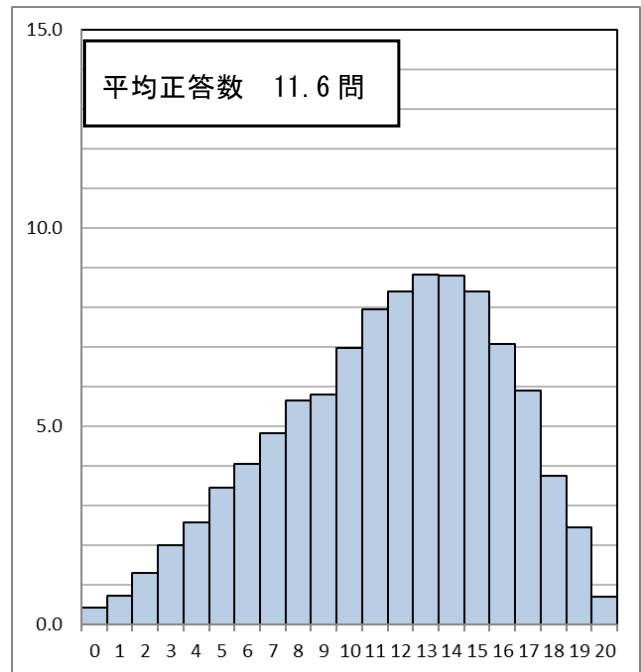
(2) 算数

【第4学年】

実施児童数	10,794 人
設問数	20 問
平均正答率	57.8 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	72.8
	量と測定	4	51.2
	図形	3	52.5
	数量関係	6	47.4
評価の観点	数学的な考え方	5	38.6
	数量や図形についての技能	9	73.8
	数量や図形についての知識・理解	6	49.7
問題形式	選択式	3	66.8
	短答式	14	59.7
	記述式	3	48.1

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

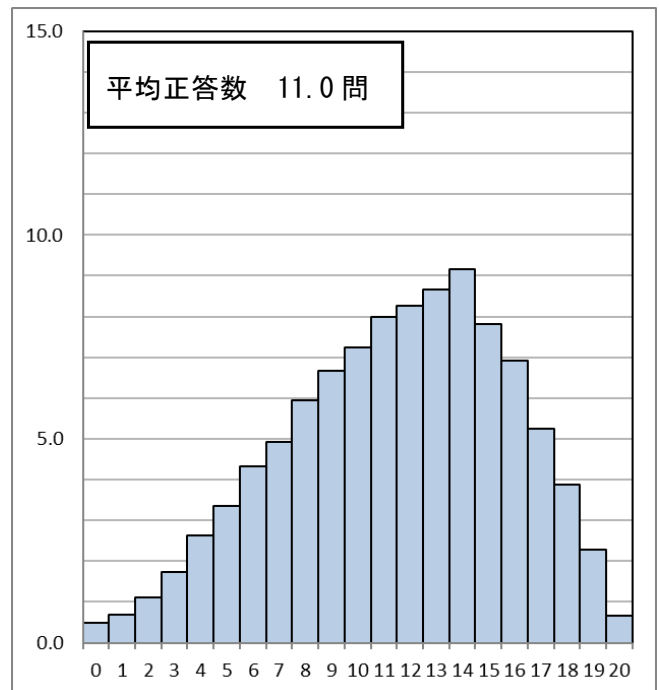


【第5学年】

実施児童数	10,757 人
設問数	20 問
平均正答率	55.1 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	数と計算	9	56.9
	量と測定	5	57.7
	図形	2	30.5
	数量関係	4	52.4
評価の観点	数学的な考え方	4	43.0
	数量や図形についての技能	10	61.1
	数量や図形についての知識・理解	6	53.2
問題形式	選択式	6	49.8
	短答式	11	62.1
	記述式	3	40.0

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

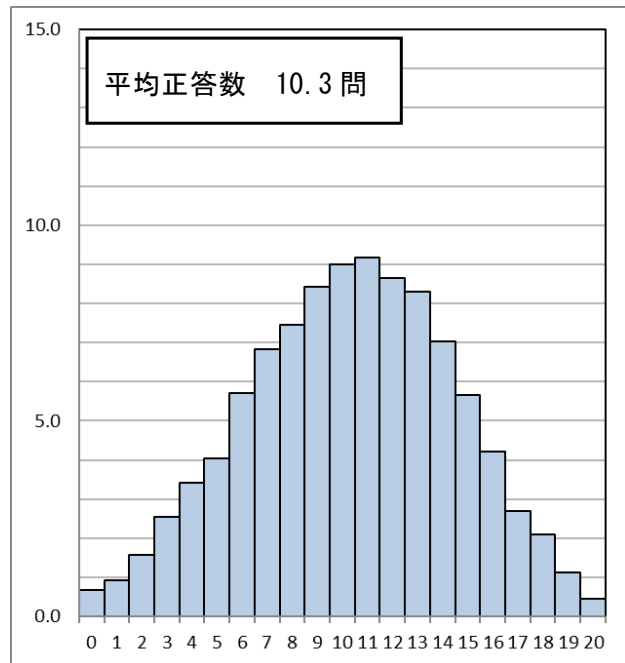


【第6学年】

実施児童数	11,029 人
設問数	20 問
平均正答率	51.5 %

正答数分布グラフ（横軸:正答数(問)、縦軸:割合[%]）

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	64.6
	量と測定	1	27.6
	図形	4	39.9
	数量関係	8	48.9
評価の観点	数学的な考え方	8	51.7
	数量や図形についての技能	7	59.2
	数量や図形についての知識・理解	5	43.9
問題形式	選択式	6	59.8
	短答式	11	47.4
	記述式	3	49.4



【結果から見られる成果と課題】

- 基本的な四則計算の技能や数の仕組みを理解すること成果が見られる。
 - ・ 繰り下がりのある3位数と3位数の減法の計算をすること (小4 $\boxed{1}$ (1) : 83.0%)
 - ・ 整数と小数の加法の計算をすること (小4 $\boxed{1}$ (4) : 83.3%)
 - ・ 同分母分数の減法の計算をすること (小4 $\boxed{1}$ (5) : 91.2%)
 - ・ 異分母の分数の加法の計算をすること (小6 $\boxed{1}$ (2) : 81.3%)

- 数量関係を捉えることに成果が見られる。
 - ・ 数量の変化に着目して、表にまとめること (小6 $\boxed{8}$ (1) : 84.6%)

- 分数の意味を理解することに課題が見られる。
 - ・ 仮分数の大きさを単位分数のいくつ分で表すこと (小4 $\boxed{3}$ (2) : 32.9%)

- 割合の内容を理解することに課題が見られる。
 - ・ 基準量と割合を基にして比較量を求めること (小5 $\boxed{6}$: 36.3%)
 - ・ 1に当たる大きさを求める問題場面では、除法を用いることを理解していること
(小6 $\boxed{5}$ (2) : 35.1%)
 - ・ 比較量とその割合から、基準量を求めること (小6 $\boxed{9}$ (2) : 16.1%)
 - ・ 必要な数値を抽出して、値段の差がA店の値段の10%にあたることを式で表すこと
(小6 $\boxed{11}$: 6.4%)

- 問題場面について情報を整理し、理由や方法等を説明することに課題が見られる。
 - ・ 表を読み取り、ドッジボールが一番人気とはいえない理由を説明すること
(小4 $\boxed{9}$ (2) : 26.6%)
 - ・ 一直線が180度であることを使って角の大きさを求める方法を、筋道を立てて説明すること (小5 $\boxed{7}$ (2) : 30.9%)
 - ・ 三角形の2つの辺の長さが円の半径であることを基に、二等辺三角形ができる理由を記述すること (小6 10(1) : 17.4%)

- 式の意味を理解することに課題が見られる。
 - ・ 除法の性質を用いて示された式の意味を理解すること (小5 $\boxed{3}$ (1) : 29.6%)
H31小6 全国調査 (県平均) 47.4% 「示された除法の式の意味を理解している」

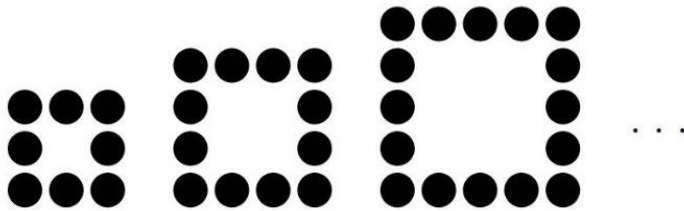
正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

※ ○は成果、●は課題を示している。

(小学校6年生) ⑧ (1)

○ 数量の変化に着目して、その様子を表にまとめることに成果が見られる。

次に、かすみさんは、下の図のように四角形を並べたとき、●の数が、どのように変わっていくかを調べることにしました。



一辺の●の数 (個)	3	4	5	6	7	
必要な●の数 (個)						

【正答】

一辺の●の数 (個)	3	4	5	6	7	
必要な●の数 (個)	8	12	16	20	24	

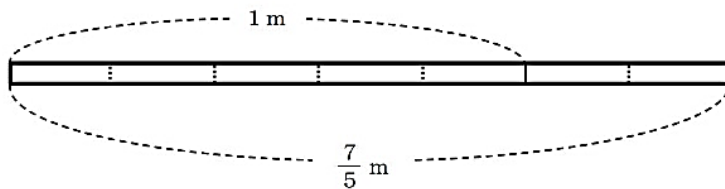
上の表にあてはまる数を書きましょう。

正答率：84.6%

(小学校4年生) ③ (2)

● 分数の意味を理解することに課題が見られる。

(2) 下のテープの長さは、 $\frac{7}{5}$ mです。 $\frac{7}{5}$ mは、何mの7つ分の長さですか。分数で答えましょう。



$\frac{7}{5}$ mは ③ m の7つ分

【正答】 $\frac{1}{5}$

正答率：32.9%

(小学校6年生) 9 (2)

● 割合の内容を理解することに課題が見られる。

9 あきらさんは、山口県でとれる魚や貝などの漁獲量について調べました。

あきらさんたちは、日本でとれる魚や貝などの都道府県別漁獲量の百分率を、新たに調べて、グラフ2に表しました。

グラフ1

山口県の主な漁獲量(トン)

品名	漁獲量(トン)
ぶり	1202
さざえ	567
あまだい	368
ふぐ	277

(農林水産省平成28年海面漁業生産統計調査)

下関市の市章

グラフ2

都道府県別の「ぶり」の漁獲量の割合

都道府県別の「さざえ」の漁獲量の割合

都道府県別の「あまだい」の漁獲量の割合

都道府県別の「ふぐ」の漁獲量の割合

(農林水産省平成28年海面漁業生産統計調査)

グラフ1とグラフ2から、日本全体の「ふぐ」の漁獲量はおよそ何トンになりますか。式と答えを書きましょう。

【正答】 $277 \div 0.05 = 5540$
(答) 5540トン

正答率：16.1%

(小学校6年生) 11

● 必要な数値を抽出して、値段の差がA店の値段の10%にあたることを式で表すことに課題が見られる。

そうたさんは、オレンジジュースを買いにきました。A店とB店で売っているオレンジジュースの値段を見ると、次の表のとおりでした。

A店	B店
140円	126円

B店のオレンジジュースの値段は、A店のオレンジジュースの値段より14円安いです。このことから、そうたさんは次のことに気づきました。

A店とB店のオレンジジュースの値段の差は、A店のオレンジジュースの値段の10%にあたるね。

そうたさん

A店とB店のオレンジジュースの値段の差が、A店のオレンジジュースの値段の10%にあたることを求める式を書きましょう。

【正答例】 $14 \div 140 \times 100 = 10$

正答率：6.4%

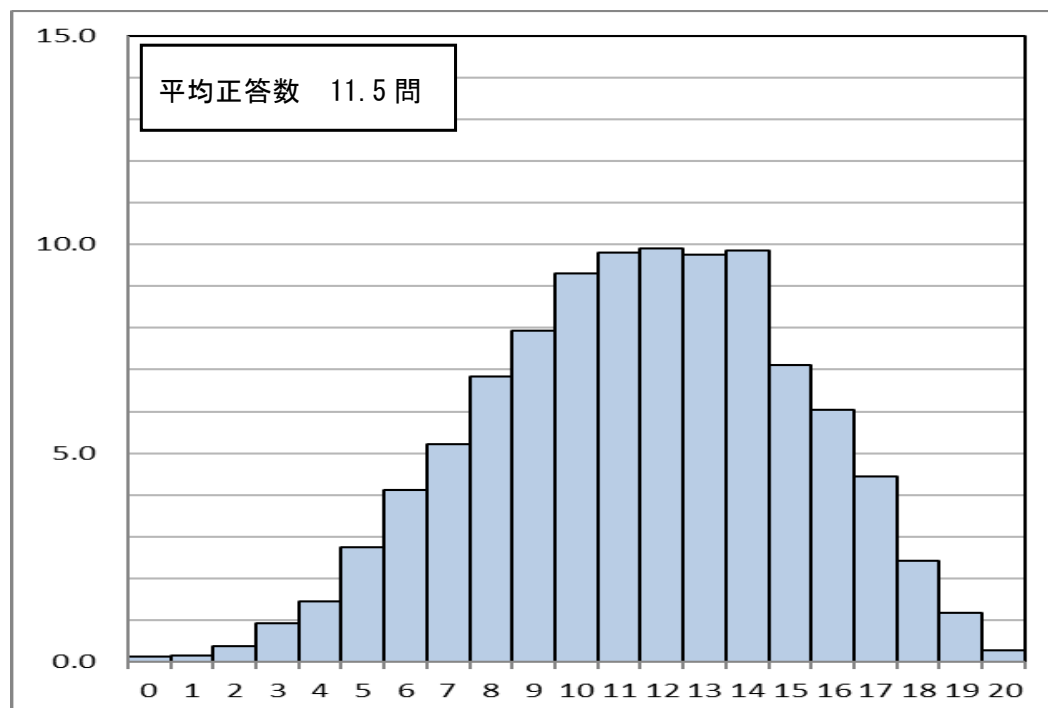
(3) 社会

【第5学年】

実施児童数	10,847 人
設問数	20 問
平均正答率	57.3 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子	3	70.3
	地域の生産や販売に携わっている人々の働き	1	97.1
	地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	3	55.8
	地域の人々の安全を守るための諸活動	0	
	地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例	4	60.2
	県の地形や産業、県内の特色ある地域	2	64.7
	我が国の国土の様子と国民生活との関連	5	40.2
	我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連	2	49.3
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	5	47.1
	資料活用の技能	6	68.1
	社会的事象についての知識・理解	9	55.6
問題形式	選択式	12	67.3
	短答式	4	38.7
	記述式	4	45.7

正答数分布グラフ（横軸:正答数[問]、縦軸:割合[%]）



【結果から見られる成果と課題】

- 地図の基本的な約束事に関しては、知識・理解の定着が見られる。
 - ・ 地図記号が表している施設を理解すること (1)81.9%
- 生活に身近な内容については、知識の定着が見られる。
 - ・ スーパーマーケットの工夫について理解すること (2)97.1%
 - ・ 昔の人々の使っていた道具を理解すること (3)98.5%
- グラフから必要な情報を読み取る技能の定着に一定の成果が見られる。
 - ・ グラフから山口県ではリサイクルが盛んに行われていることを読み取ること (4)85.2%
- 地図の読み方に関する用語の定着に課題が見られる。
 - ・ 等高線の名称を理解すること (5)6.9%
- 主な国の名称や位置、国旗に関する知識の定着に課題が見られる。
 - ・ 日本と関わりのある国の名称や位置、国旗を理解すること (7)36.6%
- 資料から必要な情報を読み取り、それらの情報をもとに、条件に合わせて説明することに、引き続き課題が見られる。
 - ・ 日本の北方領土について理解すること。 (8)22.5%
 - ・ 気温の特徴をもとに地域を判断し、南西諸島の気候の特徴について説明すること (8)29.3%

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

※ ○は成果、●は課題を示している。

社会 成果や改善傾向の見られる問題例

【小学校5年生】

○ 昔の人々の使っていた道具を理解することに成果が見られる。

3 次の1から3は、せんたくをする道具とその説明です。あとの問題に答えましょう。

(1) 道具はどの順で変化してきたでしょう。1から3を古い順にならべ、[]に番号を書きましょう。



古い順に [] → [] → []

1
せんたくから、だっ水まで自動で行うことができる。

2
よごれをたしかめながら、ごしごとあらうので、水をむだにせずあらうことができる。

3
ローラーの間にせんたく物をはさんで、しぼることができる。

【正答】古い順に [2] → [3] → [1]

正答率：98.5%

社会 課題の見られる問題例

【小学校5年生】

● 地図の読み方に関する用語の定着に課題が見られる。

5 あかねさんたちは、一週間前に遠足で登った「あさひ山」について、地図を見ながら話し合っています。

【話し合いの様子】をよんで、あとの問題に答えましょう。

地図 「あさひ山」の土地の高さの様子



【話し合いの様子】

あかね この前の遠足は楽しかったね。わたしたちが登った「あさひ山」について、学習してみよう。

たける 地図は「あさひ山」の土地の高さの様子をあらわしているね。地図には、同じ高さのところを線でむすんだ(ア)という線がしめしてあるね。

けんじ この線を見ると、どのくらいの高さの土地なのか、すぐにわかるようになっているね。

しおり それだけじゃないよ。(ア)の間かくの広さを見ることで、土地のかたむきについても読み取ることができたよね。

あかね そうだったね。だから、わたしたちが登った「あさひ山」についてわかることは、(イ)ということになるね。

(1) (ア)に入る言葉を答えましょう。

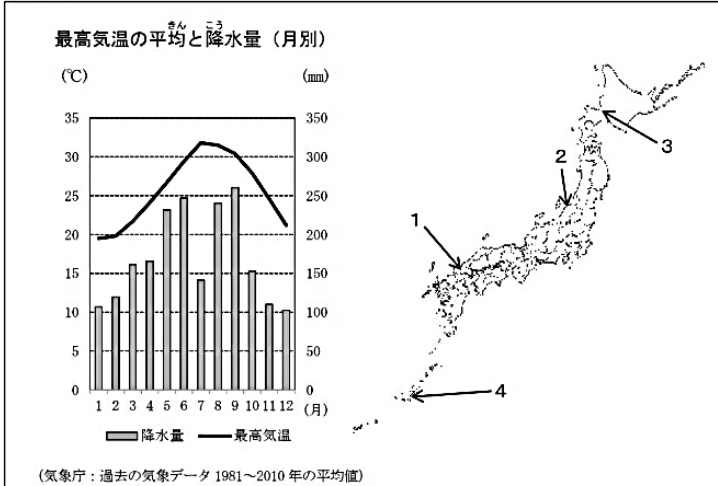
【正答】等高線

正答率：6.9%

- 資料から必要な情報を読み取り、それらの情報をもとに、条件に合わせて説明することに、引き続き課題が見られる。

8(3) 【ひなこさんのノート2】の最高気温の平均と降水量(月別)は、どの都市の気候だと考えられますか。<メモ>の(ア)にあてはまるように、地図の1から4の中から一つ選んで、その記号を書きましょう。また、<メモ>の(イ)にあてはまる理由を、気温に注目して説明しましょう。

【ひなこさんのノート2】



(気象庁：過去の気象データ 1981～2010年の平均値)

<メモ>

月別の最高気温の平均と降水量のグラフから、地図の(ア)の都市の気候だと思う。

その理由は、(イ)です。

【正答例】(完答)

ア 4

イ 最高気温の平均が20°Cをこえて
いる月が多いから。

正答率：29.3%

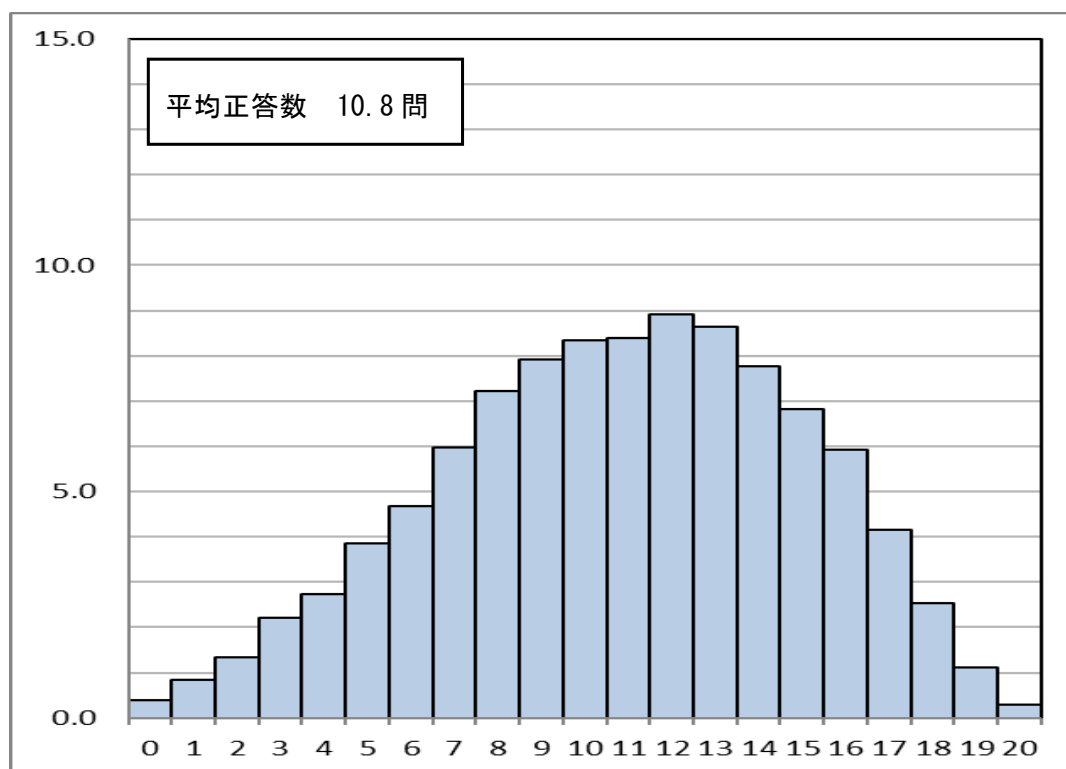
(4) 理科

【第5学年】

実施児童数	10,859 人
設問数	20 問
平均正答率	54.1 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	物質	6	65.7
	エネルギー	7	49.3
	生命	4	55.7
	地球	3	40.2
評価の観点	科学的な思考・表現	7	50.4
	観察・実験の技能	2	61.5
	自然事象についての知識・理解	11	55.2
問題形式	選択式	13	54.5
	短答式	4	53.5
	記述式	3	53.6

正答数分布グラフ (横軸:正答数 [問]、縦軸:割合 [%])



【結果から見られる成果と課題】

- 物の重さについて、物の形や物自体の増減とを関連付けて理解している。
 - ・ブロックの並べ方を変えても、重さは変わらないことを理解している。
(2)(1) 85.2%

- 日当たりについて、太陽の見た目の位置や陰のでき方とを関連付けて考えることができる。
 - ・乾物を作るために、家のどの向きのベランダに食品を置けばよいのかを、考えることができる。(3)(1) 57.6%
 - H29小5 学力定着状況確認問題39.6%
 - 「太陽の動きと方位を日当たりと関連付けて植物が生長する場所を選択すること」

- 星や星座の見た目の位置の変化について、推測することができる。
 - ・北の空の観察で、時間の経過によって星や星座の見た目の位置がどのように変化するかを推測すること (4)(2) 18.7%

- 飛行機が飛ぶ距離について、一つの実験方法とは別の方法を考えることができる。
 - ・飛行機をより遠くに飛ばすための方法について、輪ゴムを長く引っ張る以外の方法の妥当性を検討すること (1)(1) 19.6%

- 回路について、スイッチのつなぎ方により働きに変化が生じることを理解し、説明することができる。
 - ・扇風機の風量を強くするために、直列つなぎを選び、その理由を説明すること (5)(3) 30.1%

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

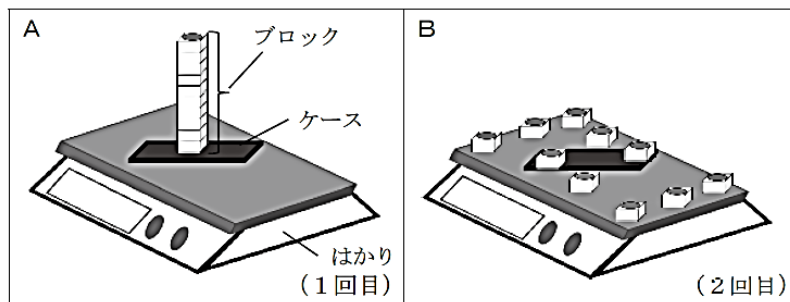
※ ○は成果、●は課題を示している。

理科 成果や改善傾向の見られる問題例

【小学校5年生】

○ 物の重さについて、物の形や物自体の増減とを関連付けて理解することに成果が見られる。

2 (1) 太郎さんは、ブロック 10 個とケースを、1 回目は次の A のように、2 回目は次の B のように、ちがう置き方をしてはかりに乗せました。実験の結果を適切に説明している文を、下のアからウの中から一つ選んで、記号で答えましょう。



【正答】 ウ

正答率：85.2%

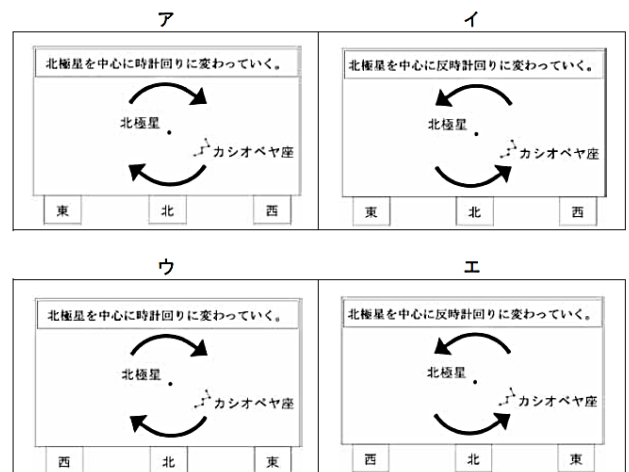
理科 課題の見られる問題例

【小学校5年生】

● 星や星座の見た目の位置の変化について推察することに課題が見られる。

4 (2) 太郎さんは、8月8日に月や太陽、星の観察を行いました。

午後8時から30分ごとに3回、北の星空を観察しました。北の空の星や星座の見た目の位置を表した図のうち、正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで、記号で答えましょう。





【正答】 エ


正答率：18.7%

- 飛行機が飛ぶ距離について、一つの実験方法とは別の方法を考えることに課題が見られる。

1 (1) 太郎さんは、10 cmしかゴムを引っ張らずに、今よりも遠くまで飛行機を飛ばす方法はないかと考えました。どんな方法が考えられるか、次のアからウの中から、ふさわしいものをすべて選んで、記号で答えましょう。

ア  (最初に使ったゴムをつなげる)

イ  (最初に使ったゴムを二重に重ねる)

ウ  (最初に使ったゴムより太いゴムを使う)

【正答】イ、ウ

正答率：19.6%

2 中学校

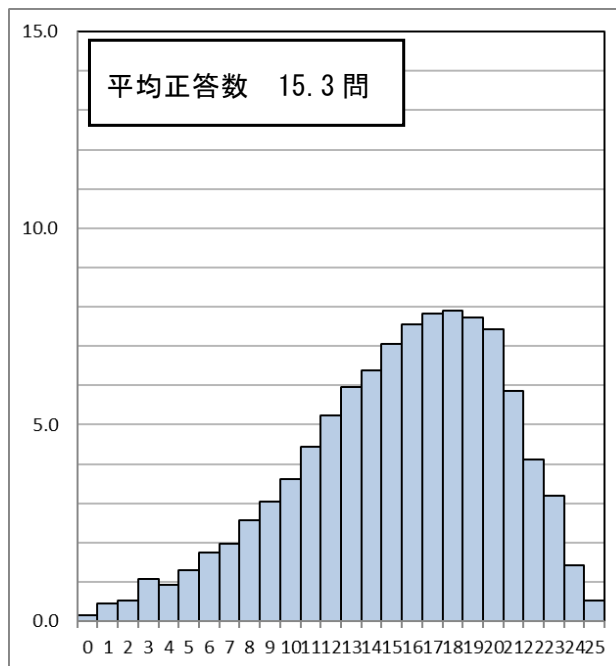
(1) 国語

【第1学年】

実施生徒数	10,426 人
設問数	25 問
平均正答率	61.3 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0	/
	書くこと	3	
	読むこと	12	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	
評価の観点	話す・聞く能力	0	/
	書く能力	3	
	読む能力	12	
	言語についての知識・理解・技能	10	
問題形式	選択式	8	67.5
	短答式	14	64.4
	記述式	3	26.5

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

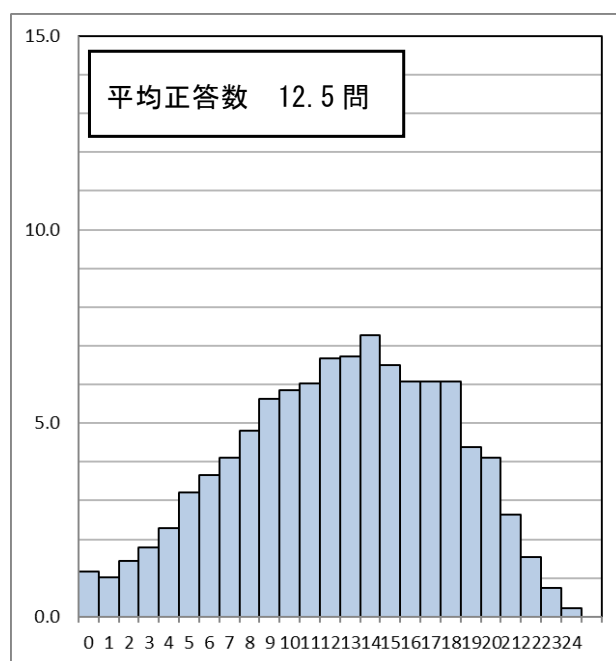


【第2学年】

実施生徒数	9,976 人
設問数	25 問
平均正答率	50.1 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0	/
	書くこと	3	
	読むこと	8	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	14	
評価の観点	話す・聞く能力	0	/
	書く能力	3	
	読む能力	8	
	言語についての知識・理解・技能	14	
問題形式	選択式	6	60.6
	短答式	16	53.5
	記述式	3	31.0

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))



【結果から見られる成果と課題】

- 1年生において、文脈に即して、適切な語句を選択することについては、相当数の生徒ができています。(中1[1]一：96.4%)
- 1年生において、内容を的確に捉え、必要な情報を取り出すことについては、相当数の生徒ができています。(中1[2]一(1)：93.6%)
- 2年生において、歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直すことについては、相当数の生徒ができています。(中2[3]一：84.7%)

- 1年生において、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。(中1[2]二：14.6%)
- 2年生において、表現の意図を理解して説明することに課題が見られる。(中2[1]五：10.2%)
- 2年生において、本文、会話の内容、あらすじから、作品の展開を理解して書くことに課題が見られる。(中2[3]六：13.4%)

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

※ ○は成果、●は課題を示している。

国語 成果の見られる問題例 【中学校 1・2年生】

(中学校 1年生)

○ 文脈に即して、適切な語句を選択することに成果が見られる。

1 【文学的な文章の一部】

その時、太郎さんは七つ、妹の千代子さんは五つでありました。太郎さんはお父さんに背負われ、千代子さんはお母さんに背負われていました。

春三月とはいえ、峠(とうげ)の道は、まだきつい寒さでした。夜明け前の四時ごろ、空にはお星さまが、と氷のようにかがやいています。山はどちらを見ても、すみをぬったように真っ黒で、灯のかげ一つ見えません。お家(うち)を出てから、もう一里あまり山の中へ入って来たのであります。お父さんのさげている提灯(ちょうちん)のあかりが、道ばたの枯草(かれくさ)にうつるのを見ると、そこそこに雪のかたまりが凍(こお)りついています。

一 文章中の に入る言葉として最も適切なものを、次の 1～4 の中から一つ選びなさい。

- 1 さらさら 2 がたがた 3 きらきら 4 そよそよ

【正答】 3

正答率：96.4%

国語 課題の見られる問題例 【中学校 1・2年生】

(中学校 2年生)

● 表現の意図を理解して説明することに課題が見られる。

1五 【話合いの場面の一部】 の で木下さんは「いつしか二人は仲よしになっていました。」という表現と「いつしか二人は仲よしになってしまいました。」という表現との違いを説明しようとしています。あなたなら、どのように説明しますか。「を予想させる」とつながるように、七字以内(句読点も文字数に含む)で書きなさい。

「いつしか二人は仲よしになっていました。」という表現では、二人が仲よしになったという事実が述べられているだけなのに対して、「いつしか二人は仲よしになってしまいました。」という表現では、この物語の を読者に予想させます。

【正答例】 悲しい結末

正答率：10.2%

(中学校 1 年生)

- 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。

2 田中さんの発表を聞いた山口さんが『このようにたとえを用いることで』と言われましたが、どのようにたとえを用いているのですか。」と質問しました。この質問を受けて、田中さんは、【田中さんの発表原稿】に次のように —— 線部の内容を書き加えることにしました。 の中に入る内容を次の条件 1 ～ 3 にしたがって書きなさい。

条件 1 書き出しに続けて書くこと。

条件 2 二つの法則に用いられたたとえについてそれぞれ書くこと。

条件 3 文章中の言葉を用いて、七十字以内で書くこと。(書き出しの言葉は、字数には含まない) また、二文になっても構いません。

二つの法則を説明するために、町並み以外のたとえが用いられています。類似則の場合は、 。

このようにたとえを用いることで、法則について、読み手が具体的に想像しやすいように工夫がされていると考えられます。

【正答例】(類似則の場合は、) 楽団員の服装がたとえとして用いられています。対比則の場合は、大きな親鳥に小さなヒナたちが一列になっついていく様子が用いられています。

正答率： 14.6%

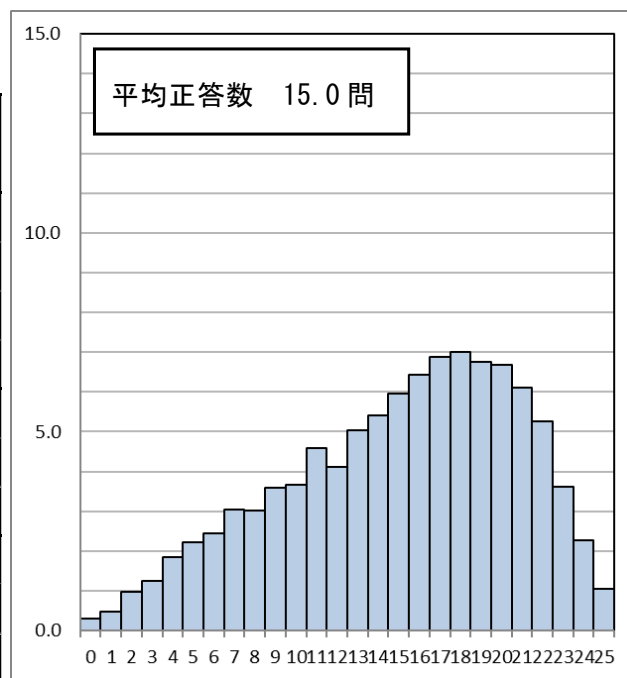
(2) 数学

【第1学年】

実施生徒数	10,298 人
設問数	25 問
平均正答率	60.0 %

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と式	17	57.3
	図形	3	57.3
	関数	2	56.0
	資料の活用	3	80.4
評価の観点	数学的な見方や考え方	4	43.8
	数学的な技能	15	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	6	50.4
問題形式	選択式	5	53.1
	短答式	17	62.7
	記述式	3	38.7

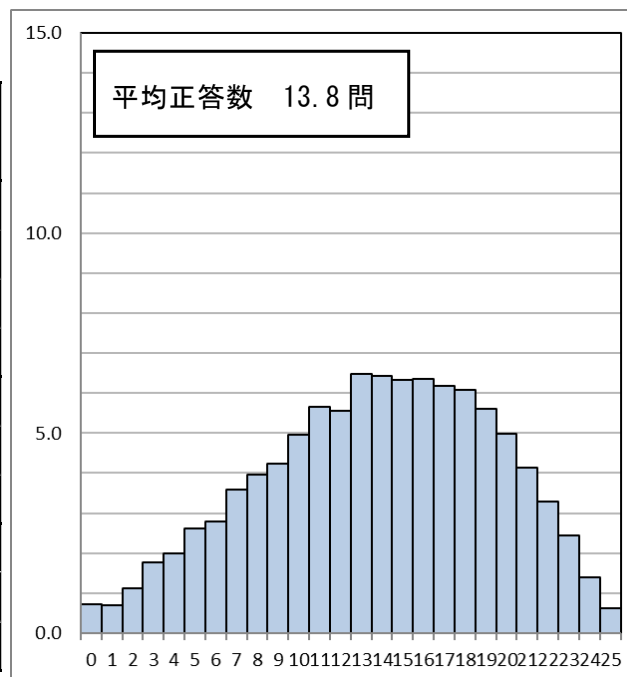


【第2学年】

実施生徒数	9,985 人
設問数	25 問
平均正答率	55.0 %

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と式	11	66.2
	図形	7	47.0
	関数	4	45.4
	資料の活用	3	45.5
評価の観点	数学的な見方や考え方	5	27.5
	数学的な技能	14	59.9
	数量や図形などについての知識・理解	6	66.5
問題形式	選択式	8	65.9
	短答式	13	57.9
	記述式	4	24.0



【結果から見られる成果と課題】

- 基本的な内容の理解に、おおむね成果が見られる。
 - ・分数の乗法の計算をすること (中1 1)(1)89.2%)
 - ・分数の減法の計算をすること (中2 1)(1)85.8%)
 - ・計算のきまりにしたがって計算をすること (中2 1)(2)81.3%)
 - ・数量の関係を等式で表すこと (中1 3)(1)86.0%)
 - ・表から柱状グラフに表すこと (中1 6)(1)96.2%)
 - ・比例のグラフの特徴を理解すること (中2 3)(2)84.0%)

- 与えられた情報を適切に読み取ることに、おおむね成果が見られる。
 - ・表から読み取った事柄を的確に評価すること (中1 6)(2)89.4%)

- 基本的な内容の理解に課題が見られる。
 - ・絶対値の意味を理解すること (中1 1)(4)48.7%)
 - ・正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解すること (中1 1)(5)39.9%)
 - ・整式の減法の計算をすること (中1 2)(1)49.5%)
 - ・等式を目的に応じて変形すること (中2 2)(2)49.4%)
 - ・円柱について、求めたい長さを求めること (中2 5)(1)42.3%)
 - ・回転移動した角の大きさを求めること (中2 5)(3)43.4%)

- 割合や比例の関係をを用いて数量を求めたり式で表したりすることに課題が見られる。
 - ・基準量を基に比較量を求めること (中1 3)(2)14.2%)
 - ・反比例の関係を利用して、必要な数量を求めること (中2 7)(1)18.6%)
 - ・反比例の関係を式に表すこと (中2 7)(2)11.4%)

- 与えられた情報を正確に読み取り、筋道を立てて考えることに課題が見られる。
 - ・問題場面における考察の対象を明確に捉えること (中1 10)(1)41.9%)

- 問題解決の結果や方法を振り返って考察することに課題が見られる。
 - ・目的に応じて、ヒストグラムをつくりかえること (中2 9)(3)41.4%)
 - ・具体的な場面に即して再検討すること (中2 10)(2)15.0%)

- 問題解決の方法を説明することや理由を説明することに課題が見られる。
 - ・2つの図形の面積が等しくなることを式を使って説明すること (中1 7)(3)36.9%)
 - ・最小公倍数に着目して、求める方法を説明すること (中1 9)(2)46.9%)
 - ・事象と式の対応を的確に捉え、文字式の成り立ちを説明すること (中1 10)(2)32.2%)
 - ・立方体の面上の直線と直線の位置関係について説明すること (中2 6)(2)22.2%)
 - ・長方形の面積の大きさの違いを求める方法を説明すること (中2 8)(2)23.9%)
 - ・判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること (中2 9)(2)34.9%)

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

※ ○は成果、●は課題を示している。

数学 成果や改善傾向の見られる問題例 【中学校 1・2 年生】

(中学校 1 年生)

○ 表から読み取った事柄を的確に評価することに成果が見られる。

6) 次の記録は、ある中学校の 1 年生 19 人が反復横とびを 20 秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

30	33	34	35	36	37	38	39	39	41
44	46	46	47	49	51	52	54	57	

柳井さんは、ちらばりのようすが分かるように、結果を 5 回ごとに区切って、次のような表をつくりました。

表

回数 (回)	人数 (人)
30 以上 ~ 35 未満	3
35 ~ 40	6
40 ~ 45	2
45 ~ 50	4
50 ~ 55	3
55 ~ 60	1
合計	19

(2) 柳井さんは、表から分かることとして、次のア～エを書きました。ア～エの中に、間違っているものが 1 つあります。間違っているものを選び、記号で答えなさい。

- ア この中学校の 1 年生 19 人の記録の中に、記録が 30 回より少ない人はいない。
- イ この中学校の 1 年生 19 人の記録の中に、記録が 60 回より多い人はいない。
- ウ 表の中で人数が一番多い区間は、35 回以上 40 回未満である。
- エ 表の中で人数が一番少ない区間は、30 回以上 35 回未満である。

【正答】 エ

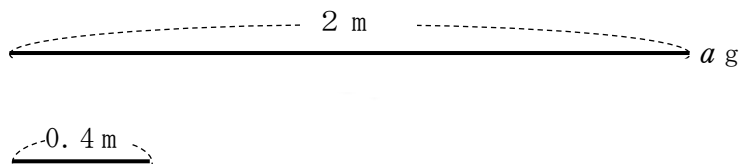
正答率：89.4%

数学 課題の見られる問題例 【中学校 1・2 年生】

(中学校 1 年生)

● 基準量を基に比較量を求めることに課題が見られる。

3) (2) 2 m の重さが a g の針金がある。この針金 0.4 m の重さを、 a を使った式で表しなさい。



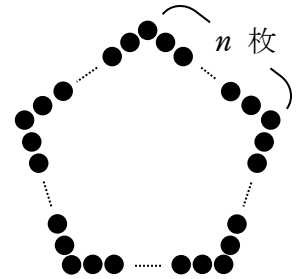
【正答】 $0.2 a$

正答率：14.2%

(中学校 1 年生)

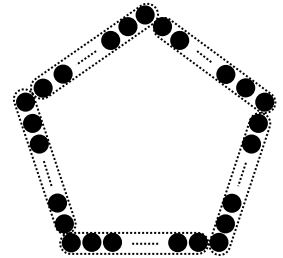
● 事象と式の対応を的確に捉え、文字式の成り立ちを説明することに課題が見られる。

10 岩国さんは、右の図のように、1 辺に n 枚ずつコインを並べて正五角形をつくるとき、コインが全部で何枚必要かを考えています。次の (1) ~ (3) に答えなさい。



(1) 1 辺に 4 枚ずつコインを並べて正五角形をつくるために必要なコインの枚数を求めなさい。

(2) 岩国さんは、次の図のようにコインを囲んで考えました。図のような囲み方になると、コイン全部の枚数は、 $5(n - 1)$ という式で求めることができる理由について、の中の岩国さんの説明を完成させなさい。



【正答例】(1) 15 枚 (2) 1 辺に並んでいるコインは n 枚あり、そのうち一つの頂点のコインを除いて囲むので、図の囲み方するとき 1 辺につき $(n - 1)$ 枚のコインが並んでいる。この囲みが 5 つあるので、 $(n - 1)$ を 5 倍する。(以上から、コインは全部で $5(n - 1)$ 枚です。)

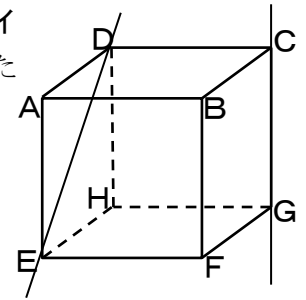
正答率 : (1) 41.9%、(2) 32.3%

(中学校 2 年生)

● 立方体の面上の直線と直線の位置関係について説明することに課題が見られる。

6 右の立方体において、直線 DE と直線 CG は交わりますか。次のア、イの中から正しいものを 1 つ選び、解答用紙の記号を \bigcirc で囲みなさい。またそれが正しいこと理由を説明しなさい。

- ア 直線 DE と直線 CG は交わる
- イ 直線 DE と直線 CG は交わらない



【正答例】面 $A E H D$ と面 $B F G C$ は平行で、直線 DE と直線 CG はねじれの位置にあるから直線 DE と直線 CG は交わらない。

正答率 : 22.2%

(3) 社会

【第2学年】

実施生徒数	9,992 人
設問数	25 問
平均正答率	44.9 %

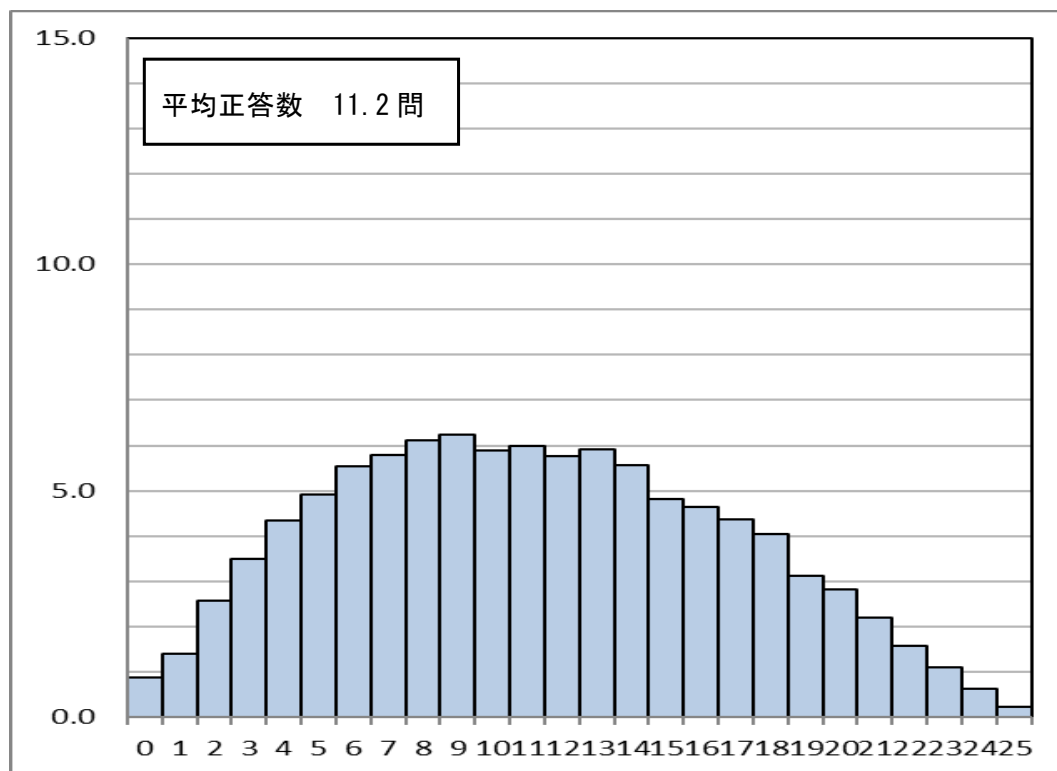
地理的分野

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	世界の地域構成	2	70.6
	世界各地の人々の生活と環境	2	74.9
	世界の諸地域	5	33.5
	世界のさまざまな地域の調査	0	
	日本の地域構成	2	64.6
	世界と比べた日本の地域的特色	2	37.6
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	5	37.3
	資料活用技能	2	74.4
	社会的事象についての知識・理解	6	54.6
問題形式	選択式	6	61.9
	短答式	2	52.3
	記述式	5	37.3

歴史的分野

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	歴史のとらえ方	3	42.5
	古代までの日本	2	35.9
	中世の日本	7	37.4
	近世の日本	0	
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	2	38.8
	資料活用技能	1	74.5
	社会的事象についての知識・理解	9	34.3
問題形式	選択式	6	47.9
	短答式	5	22.1
	記述式	1	63.0

正答数分布グラフ (横軸:正答数[問]、縦軸:割合[%])



【結果から見られる成果と課題】

- 写真や資料から必要な情報を正しく読み取ることに成果が見られる。
 - ・ 人々の暮らしと雨温図を関連付けて選択すること (2)(2)79.1%

- 政策の特徴を理解することに成果が見られる。
 - ・ 太閤検地と刀狩を兵農分離と関連付けて理解すること (10)(3)74.5%

- 資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明することに課題が見られる。
 - ・ モノカルチャー経済の課題について説明すること (4)(1)26.2%
 - ・ インドの特徴について複数の資料を関連付けて説明すること (5)(2)30.9%

- 示された条件に従って、社会的事象の特徴等について説明することに課題が見られる。
 - ・ 正長の土一揆の意義について複数の資料をもとに適切な語句を入れること (8)(4)14.5%

- 基本的な用語（人物名・事象名）や大まかな歴史の流れについて理解することに課題が見られる。
 - ・ 鎌倉時代の主な争いについて理解すること (8)(3)7.3%
 - ・ 各時代の外交に関するできごとを理解すること (9)(3)23.7%
 - ・ 古代の東アジアの国々との争いについて理解すること (8)(2)20.7%
 - ・ 太閤検地の意義について理解すること (10)(1)15.5%

- 地理的分野については記述式問題に課題が見られ、歴史的分野については短答式問題の正答率が低い。

正答率が80%以上であるものや過去の調査等と比較し改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめています。

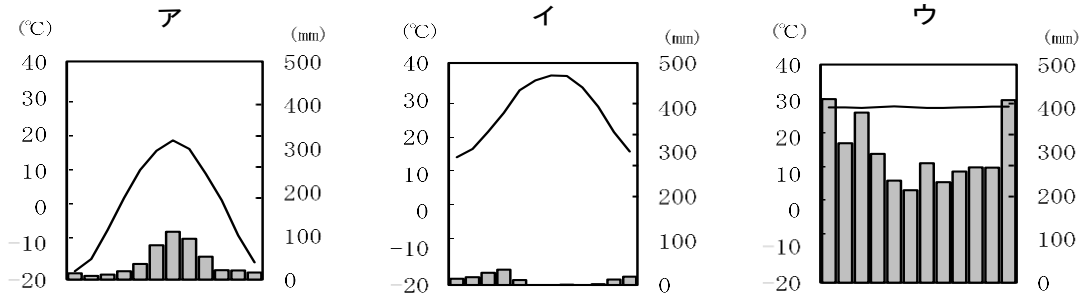
※ ○は成果、●は課題を示している。（■は問題形式による課題）

社会 成果や改善傾向の見られる問題例 【中学校2年生】

○ 人々の暮らしと雨温図を関連付けて選択することに改善傾向が見られる。

2 (2) 次の①～③の文は、下のア～ウの雨温図が示す地域の食生活について説明したものである。①～③の食生活が見られる地域の雨温図をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 乾燥に強いらくだや羊の肉を使った料理、小麦のうす焼きパンやトウモロコシなどが食べられている。
- ② 高温多湿の地域でよく育つキャッサバやタロイモなどのいも類、米を主食とした料理が食べられている。
- ③ 短い夏の間栽培した野菜を酢づけにした保存食やジャガイモ、魚・肉料理などが食べられている。



(理科年表 2018)

【正答】 ①イ ②ウ ③ア

正答率：79.1%

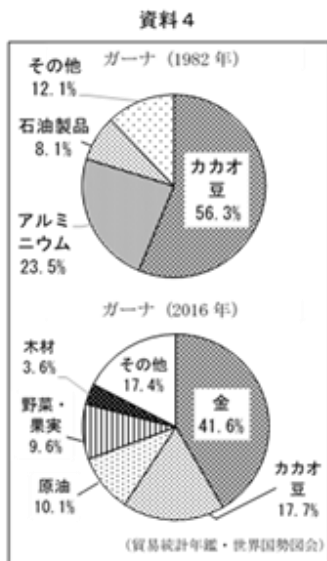
社会 課題の見られる問題例 【中学校2年生】

● 資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明することに課題が見られる。

- ・モノカルチャー経済の課題について説明すること

4 (1) 資料4は1982年と2016年のガーナの主な輸出品の内訳、資料5はカカオ豆の国際価格の推移を示したものである。ガーナの輸出品が変化した理由を、下の条件①と条件②にしたがって説明しなさい。

※ 国際価格とは、世界各国において広く貿易が行われている商品の価格のこと。



条件①：カカオ豆の国際価格について触れること
条件②：「モノカルチャー経済」という語句を用いること

【正答例】
カカオ豆の国際価格の変動が大きく、モノカルチャー経済では国の収入が安定しないため

正答率：26.2%

● 基本的な用語（人物名・事象名）や大まかな歴史の流れについて理解することに課題が見られる。

- ・各時代の外交に関するできごとを理解すること

9 (3) A～Eを年代の古い順にならべかえなさい。

A ポルトガルやスペインなどのヨーロッパ諸国との貿易がはじまり、①鉄砲や火薬などが輸入され、銀などが輸出された。

B 8代執権北条時宗が、元からの朝貢と服従の要求を拒否したので、二度にわたり②元軍の襲来を受けた。

C 平清盛は、瀬戸内海の航路を整え、大輪田泊（今の神戸市）を修築して、中国との貿易を盛んに行った。

D 幕府は中国からの申し入れに応じて、倭寇を取り締まるとともに、正式な貿易船に勘合を与え、貿易を行った。

E 邪馬台国の女王卑弥呼が、魏に使者を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号、金印や銅鏡などを授かった。

【正答】 E→C→B→D→A

正答率：23.7%

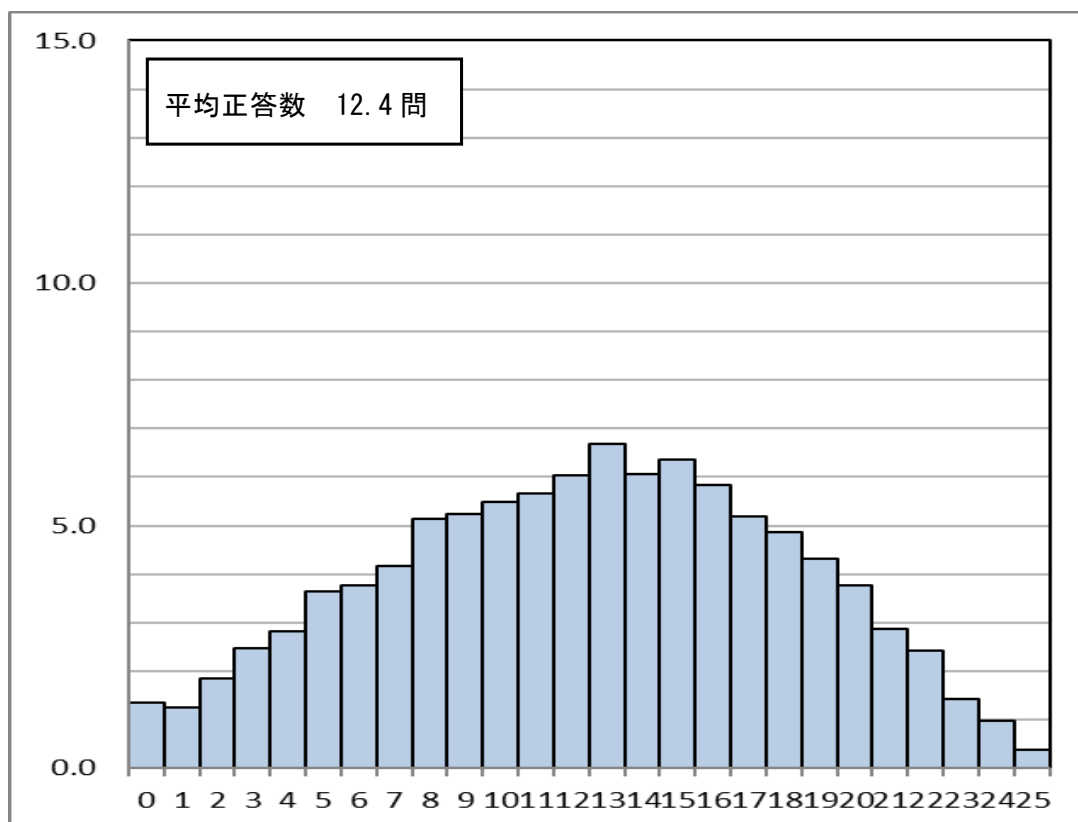
(4) 理科

【第2学年】

実施生徒数	9,963 人
設問数	25 問
平均正答率	49.8 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	物質	9	50.9
	エネルギー	6	49.5
	生命	7	54.5
	地球	3	36.0
評価の観点	科学的な思考・表現	7	33.5
	観察・実験の技能	3	42.8
	自然事象についての知識・理解	15	55.9
問題形式	選択式	7	63.7
	短答式	10	47.5
	記述式	8	43.3

正答数分布グラフ (横軸:正答数 [問]、縦軸:割合 [%])



【結果から見られる成果と課題】

- 化学式が表す物質の分類を判別することに成果が見られる。
 - ・ 化学式を見て単体か化合物かどうかを判別すること (7)(2)82.9%)

- 図やグラフが示す情報やそれらが表す情報の読み取り方について説明することに課題が見られる。
 - ・ グラフから物質の密度を読み取る方法について説明すること (2)(3)10.6%)
 - ・ 凸レンズによる像のでき方の規則性を説明すること (3)(3)32.4%)

- 火成岩の特徴を示す複数の資料を見て適切なものを選択することに課題が見られる。
 - ・ 岩石に色と鉱物の割合の関係性を理解すること (5)(2)20.2%)
 - ・ 火成岩の特徴から岩石の種類を判別すること (5)(3)24.5%)

- 理科の学習における基本的な用語が表すものや似ている用語の違いを理解することに課題が見られる。
 - ・ 「重さ」と「質量」の違いを理解している。(2)(1)34.2%)
 - ・ 凸レンズによる像の名称を理解している。(3)(1)36.2%)

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

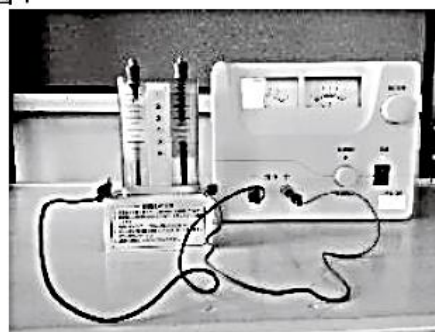
※ ○は成果、●は課題を示している。

- 化学式を見て単体か化合物かどうかを判別することに成果が見られる。

- 7 図1のような装置を用いて、水を電気分解した。
この実験で起きた化学変化は、次の化学反応式で表すことができる。(1)～(3)の問いに答えなさい。



図1



- (2) H_2O 、 H_2 、 O_2 の化学式で表される3つの物質の中で化合物はどれか。次の1～3から1つ選び、記号で答えなさい。

1 H_2O 2 H_2 3 O_2

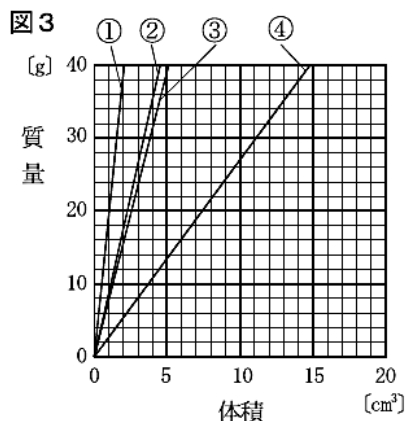
【正答】 1

正答率：82.9%

- 物質の密度についてグラフから読み取る方法を説明することに課題が見られる。

- 2 物質名のわからない物体Aが何でできているかを調べるための実験を行った。下の図1は、物体Aとつり合ったときの分銅の種類と数を表し、図2は、物体Aを水の入ったメスシリンダーの中に沈めたときの様子を表している。(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (3) 図3は、物体の体積と質量の関係を表すグラフである。この物体Aをつくっている物質は、このグラフの④で表される。このとき①～③のようなグラフで表される物質と④で表される物質の密度の違いを、「密度」「体積」の語句を用いて説明しなさい。



【正答例】

同じ体積のときの質量を比べると、①～③は④より大きいので、①～③の密度は④より大きい。

正答率：10.6%

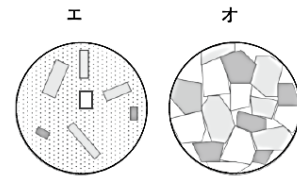
● 資料を活用して火成岩の特徴から岩石の種類を判別することに課題が見られる。

5 表1は、マグマのはたらきによってできる火成岩や火山についてまとめたものである。また、図1のア～ウは火山の形を、図2のエ、オは火成岩の表面をルーペで観察したときの様子を模式的に表したものである。次の(1)～(3)の間に答えなさい。

表1

	りゅうもんがん 流紋岩	安山岩	げんぶがん 玄武岩
地表や地表近くで急に冷え固まった岩石			
地下深くでゆっくり冷え固まった岩石	花こう岩	せん緑岩	はんれい岩
火成岩をつくる鉱物と割合	セキエイ	チョウ石	その他の鉱物
	クロウンモ	カクセン石	キ石 カンラン石
岩石(溶岩)の色	白っぽい	←→	黒っぽい
マグマのねばりけ	大きい(強い)	←→	小さい(弱い)
火山の形	A	B	C

図2



(3) ある火成岩を調べたら、次のようなことがわかった。<わかったこと>と表1及び図2を基に、この火成岩の名称を答えなさい。

<わかったこと>

この岩石に含まれる鉱物を調べるとセキエイ、チョウ石、クロウンモ、カクセン石が含まれていた。しかし、キ石は含まれていなかった。また、表面の様子は、図2のオのようであった。

【正答】
花こう岩

正答率：24.5%

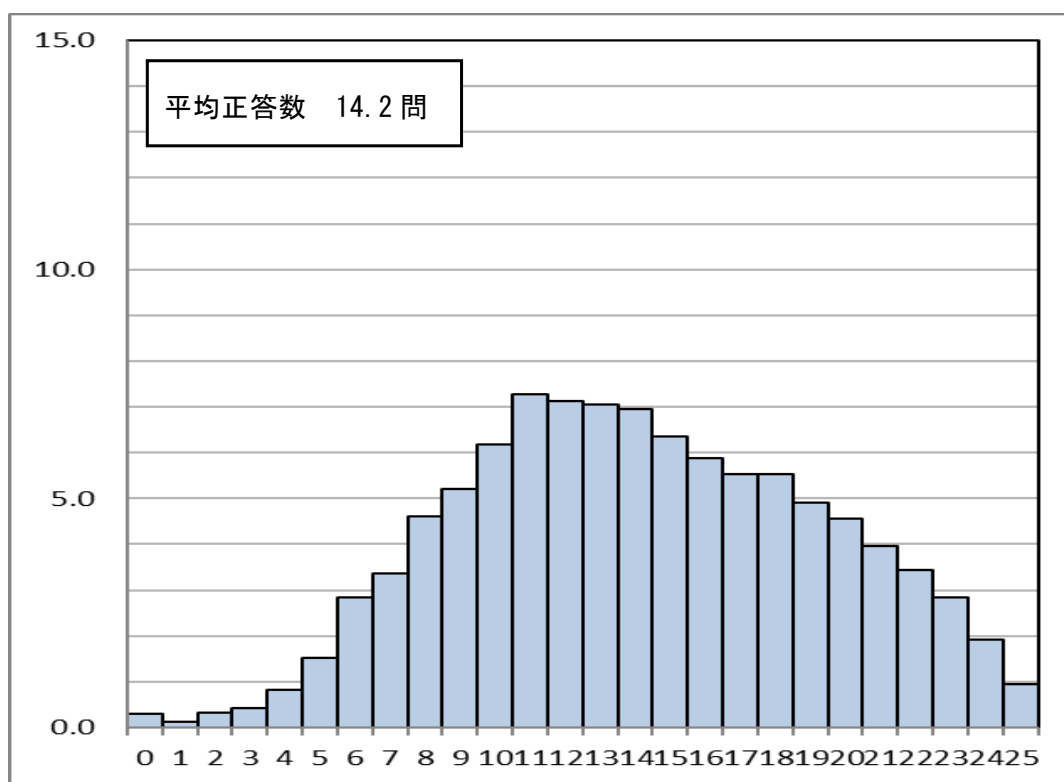
(5) 英語

【第2学年】

実施生徒数	9,961 人
設問数	25 問
平均正答率	56.6 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	聞く	8	68.7
	読む	12	58.8
	書く	5	32.0
評価の観点	表現	5	32.0
	理解	17	62.3
	言語・文化	3	65.6
問題形式	選択式	15	72.0
	短答式	3	36.7
	記述式	7	32.3

正答数分布グラフ (横軸:正答数(問)、縦軸:割合(%))



【結果から見られる成果と課題】

- 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることは、相当数の生徒ができている。
 - ・先週と今日の天気を表している絵を見ながら英文を聞き、適切に表現している答えを選ぶこと (1)(2)96.6%)
- 基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことは、相当数の生徒ができている。
 - ・会話の中で、例を言う時に使用する“For example”を選ぶこと (4)(1)82.6%)
- 聞いて把握した内容について、適切に応じることに課題が見られる。
 - ・昨年度までクラスに来ていた留学生の音声メッセージを聞いて、日本語の勉強に関するアドバイスを書くこと (3)(3)22.0%)
- 文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことに課題が見られる。(場面に応じた表現)
 - ・ALTに興味や暇な時間に何をするのかを尋ねる英文を書くこと (7)(2)19.1%)
 - ・ホームステイに来ているマイクを文化祭に誘う英文を書くこと (7)(3)22.6%)
- まとまりのある英文を読み、その内容に関する質問に対して適切に応じることに課題が見られる。
 - ・“How long did Masako and her sister clean the park?” という質問に対して、主語と動詞を省略した形式で“For an hour.”と答えること (8)(2)22.0%)

正答率が80%以上であるものや、過去の調査等と比較して改善の傾向が見られるものを成果としてまとめるとともに、特に課題と見られる状況について、全体の傾向をまとめている。

※ ○は成果、●は課題を示している。

○【聞くこと】

日常的な話題について、情報を正確に聞き取ること

1 (聞き取り問題)

これから、(1)と(2)の絵について、ア～ウの3つの英文を放送します。それぞれの絵の内容に最もふさわしい英文を1つずつ選び、記号で答えなさい。英文は1回だけ放送します。



(先週の天気)



(今日の天気)

- ア It was cold last week, and it is cold today, too.
- イ It was cold last week, but it is hot today.
- ウ it was hot last week, but it is cold today.

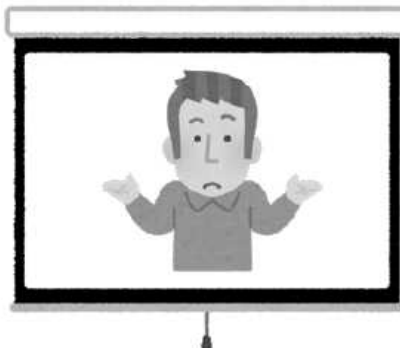
【正答】 イ

正答率：96.6%

●【聞くこと】

聞いて把握した内容について、適切に応じること。

(3) 昨年度までクラスに来ていたオーストラリアからの留学生が、ビデオメッセージを送ってくれました。メッセージの内容を踏まえて、あなたから留学生へのアドバイスを日本語で1つ書きなさい。



【正答例】 私と日本語でメールをしましょう。

正答率：22.0%

●【読むこと】

まとまりのある英文を読み、その内容に関する質問に対して適切に応じること。

8 英語の授業で、マサコはボランティア体験の発表をしたあと、クラスで意見交換をしました。次の英文はマサコの発表原稿です。英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

I was walking to the library with my sister on the morning of June 7.

We saw some people in the park. I *said to her, “Look at them. They are cleaning the park. Our *city has a *cleanup activity on the first Sunday of every month.” She said, “Oh, I didn’t know ①that. Can I *join the cleanup activity next month?” I said, “Yes. Everyone can join it. Let’s try *volunteer work together.”

On the first Sunday of July, Kumi and I got up early in the morning. We went to the park after breakfast. We *collected trash, and cleaned the park for an hour. It was a hot day, and we were very tired. We *sat on the *bench. *Then, an old woman came to us, and said, “Thank you for your work. The park is very beautiful now. I’m happy.” I said to her, “It has a lot of *nature. My sister and I like this place. So, we joined this cleanup activity.”

The old woman *smiled, and said, “②_____.” We walked home from the park. I talked about our volunteer work to my mother at lunch time.

She said, “You worked *hard in the morning. Thank you.” She looked happy, and we were very happy, too. We can’t *wait for the next time!

(注) said : 言った city : 市 cleanup activity : 清掃活動 join : 参加する
volunteer work : ボランティアの仕事 collected trash : ごみを集めた
sat : 座った bench : ベンチ Then : そのとき nature : 自然 smiled : 笑った
hard : 熱心に wait for ~ : ~を待つ

(2) 次の(ア), (イ)の質問に対する答えとなるように、それぞれ下線部にふさわしい語を入れ、英文を完成させなさい。

(ア) 質問 How long did Masako and her sister clean the park?
答え _____.

【正答例】 For an hour.

正答率 : 22.0%

●【書くこと】

文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くこと

7 次の(1)～(3)の対話文について、それぞれ()に合う3語以上の英文1文を書き、会話を完成させない。ただし、英文の最後にはピリオド、またはクエスチョンマークをつけなさい。

(2) 【場面】ミクは生徒会通信にALTについての記事を書くことになり、ALTのブラウン先生にインタビューしています。

Miku: How is your *life in Japan?

Mr. Brown: It's exciting! *Everything is new to me.

Miku: I see. ()

Mr. Brown: Well, I play *shogi* in my free time, but I can't play it *well.

Miku: You play *shogi*? I learn about it every Saturday.

Mr. Brown: Really? Let's play *shogi* together.

(注) life : 生活 everything : すべてのこと well : 上手に

【正答例】 What do you do in your free time?

正答率 : 19.1%

3 設問別正答率一覧

令和元年度 学力定着状況確認問題 出題の趣旨一覧表

小学校第4学年 国語

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	3	49.4
	書くこと	4	57.3
	読むこと	3	54.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	64.2
評価の観点	話す・聞く能力	3	49.4
	書く能力	4	57.3
	読む能力	3	54.2
	言語についての知識・理解・技能	10	64.2
問題形式	選択式	9	68.8
	短答式	8	59.9
	記述式	3	27.8

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			県全体正答率(%)
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	
1	一	(1)				○			○		○		65.4
1	一	(2)				○			○		○		72.4
1	一	(3)				○			○		○		58.6
1	一	(4)				○			○		○		45.4
1	二	(5)				○			○	○			61.6
1	三	(6)				○			○	○			83.1
2	一	(7)		○					○		○		85.0
2	二	(8)		○					○		○		44.6
2	三	(9)				○			○	○			71.2
2	四	(10)		○					○		○		81.5
2	五	(11)				○			○		○		19.4
2	六	(12)		○					○			○	18.0
3	一	(13)				○			○		○		72.5
3	一	(14)				○			○		○		92.3
3	二	(15)				○			○		○		55.7
3	三	(16)				○			○			○	23.9
3	四	(17)				○			○		○		83.1
4	一	(18)		○					○		○		53.8
4	二	(19)		○					○		○		52.9
4	三	(20)		○					○			○	41.4

小学校第4学年 算数

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	72.8
	量と測定	4	51.2
	図形	3	52.5
	数量関係	6	47.4
評価の観点	数学的な考え方	5	38.6
	数量や図形についての技能	9	73.8
	数量や図形についての知識・理解	6	49.7
問題形式	選択式	3	66.8
	短答式	14	57.9
	記述式	3	48.1

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			県全体正答率(%)	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式		記述式
1 (1) (1)	繰り下がりのある3位数と3位数の減法の計算をすることができる	○				○			○			83.0
1 (2) (2)	3位数と2位数の整数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			69.9
1 (3) (3)	3位数と2位数の除法の計算をすることができる	○				○			○			79.2
1 (4) (4)	整数と小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			83.3
1 (5) (5)	同分母分数の減法の計算をすることができる	○				○			○			91.2
2 (6)	最小目盛の量に着目して、重さを測定することができる		○			○			○			62.2
3 (1) (7)	単位分数をもとに、数直線上に1をあらわすことができる	○						○	○			69.9
3 (2) (8)	仮分数の大きさを単位分数のいくつ分であらわすことができる	○						○	○			32.9
4 (1) (9)	折れ線グラフの傾きに着目し、変わり方が大きい時間帯を見いだすことができる				○			○	○			48.5
4 (2) (10)	2つの折れ線グラフを比較して分かることを選ぶことができる				○			○	○			69.5
5 (1) (11)	乗法の場面を、□を使った式に表すことができる				○			○	○			41.2
5 (2) (12)	□を使った式を活用して、リボンを買うことができない理由を記述することができる				○	○				○		56.6
6 (13)	整数と小数の関係に着目し、テープの長さを小数で表すことができる		○					○	○			63.9
7 (14)	直線の長さが半径のいくつかに着目し、円の半径の長さを求めることができる			○		○			○			35.3
8 (15)	示された1/4円から、円の中心を求めることができる			○				○	○			60.9
9 (1) (16)	比較量が基準量の何倍かを求める除法の式を書くことができる				○			○	○			41.9
9 (2) (17)	表を読み取り、ドッジボールが一番人気とはいえない理由を説明することができる				○	○				○		26.6
10 (18)	時刻表の情報を基に、出発時刻を求めることができる		○			○			○			13.2
11 (19)	180°よりも大きい角の大きさを求めることができる		○					○	○			65.3
12 (20)	三角形の2つの辺の長さが円の半径であることを基に、二等辺三角形ができる理由を記述することができる			○		○				○		61.2

小学校第5学年 国語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数（問）	県全体正答率（％）
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	3	48.0
	書くこと	3	62.4
	読むこと	3	55.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	59.0
評価の観点	話す・聞く能力	3	48.0
	書く能力	3	62.4
	読む能力	3	55.6
	言語についての知識・理解・技能	11	59.0
問題形式	選択式	12	59.2
	短答式	5	67.4
	記述式	3	33.3

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			県全体正答率（％）		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式		記述式	
1	一	(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる				○				○			81.0
1	一	(2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる				○				○			43.0
1	一	(3)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる				○				○			92.2
1	一	(4)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる				○				○			94.5
1	二	(5)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる				○				○			74.8
1	三	(6)	文の中における主語、述語を捉えることができる				○				○			66.4
1	四	(7)	敬語の正しい使い方を理解している				○				○			45.7
1	五	(8)	漢字の成り立ちについて理解している				○				○			33.1
1	六	(9)	国語辞典の正しい使い方を理解している				○				○			37.7
1	七	(10)	主語と述語の関係に気をつけて、一文を二文に分けることができる				○				○			26.1
2	一	(11)	図表やグラフから読み取れる情報を選択することができる	○							○			64.7
2	二	(12)	図表やグラフなどを用いた目的を捉えることができる	○							○			74.1
2	三	(13)	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができる	○							○			48.5
3	一	(14)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる			○					○			27.9
3	二	(15)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる			○					○			63.3
3	三	(16)	目的に応じて、本や文章全体を概観して読むことができる			○					○			75.7
4	一	(17)	質問の意図を捉えることができる	○							○			64.8
4	二	(18)	目的に応じて、質問を工夫することができる	○							○			55.6
4	三	(19)	話し手の意図を捉えながらか聞き、自分の考えをまとめることができる	○							○			23.6
4	四	(20)	言葉の意味を理解して、自分の表現に用いることができる				○				○			54.9

小学校第5学年 算数

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と計算	9	56.9
	量と測定	5	57.7
	図形	2	45.7
	数量関係	4	52.4
評価の観点	数学的な考え方	4	43.0
	数量や図形についての技能	10	61.1
	数量や図形についての知識・理解	6	53.2
問題形式	選択式	6	49.8
	短答式	11	62.1
	記述式	3	40.0

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			県全体正答率(%)
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	
1 (1) (1)	数を四捨五入して、概数で表すことができる	○				○		○			73.3
1 (2) (2)	数量を口や△などを用いて表し、その関係を式にすることができる				○	○		○			57.2
1 (3) (3)	1/100にした数を、小数点の位置に着目して求めることができる	○				○			○		70.1
2 (1) (4)	小数どうしの加法の計算をすることができる	○				○			○		72.6
2 (2) (5)	小数どうしの乗法の計算をすることができる	○				○			○		61.1
2 (3) (6)	除数が小数である場合の除法の計算を一の位まで行い、商と余りを求めることができる	○				○			○		50.4
2 (4) (7)	加法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	○				○			○		74.4
3 (1) (8)	除法の性質を用いて示された式の意味を理解している	○					○	○			29.6
3 (2) (9)	同種の2つの数量の関係を図に表して基準量に対する比較量の割合を捉えることができる	○					○	○			44.7
4 (10)	体積の違いを筋道を立てて説明することができる		○			○				○	41.4
5 (11)	分度器を用いて角の大きさを測定することができる		○			○			○		69.2
6 (12)	基準量と割合を基にして比較量を求めることができる	○					○		○		36.3
7 (1) (13)	三角定規を構成する角度を使って、いろいろな角の大きさを作ることができる		○				○		○		78.3
7 (2) (14)	一直線が180度であることを使って角の大きさを求める方法を、筋道を立てて説明することができる			○		○				○	30.9
8 (15)	面のつながりや位置関係に着目して、立方体の向かい合う面の位置関係を考えることができる			○			○	○			60.5
9 (16)	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式して数値を求めることができる				○		○		○		70.0
10 (17)	2つの折れ線グラフを比較し、正しい情報を読み取ることができる				○	○		○			33.3
11 (18)	二次元表の中の数が表す事柄を読み取ることができる				○	○			○		49.1
12 (1) (19)	連続する3つの数値の和が、中央の値の3倍になると求められることを理解している	○				○			○		51.9
12 (2) (20)	連続する5つの数値の和が、中央の値の5倍になると求められることを説明することができる	○				○				○	47.6

小学校第5学年 社会

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子	3	70.3
	地域の生産や販売に携わっている人々の働き	1	97.1
	地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	3	55.8
	地域の人々の安全を守るための諸活動	0	
	地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例	4	60.2
	県の地形や産業、県内の特色ある地域	2	64.7
	我が国の国土の様子と国民生活との関連	5	40.2
評価の観点	我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連	2	49.3
	社会的な思考・判断・表現	5	47.1
	資料活用に関する技能	6	68.1
問題形式	社会的な事象についての知識・理解	9	55.6
	選択式	12	67.3
	短答式	4	38.7
	記述式	4	45.7

設問集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域							評価の観点	問題形式			県全体正答率（%）	
		身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子	地域の生産や販売に携わっている人々の働き	地域の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例	県の地形や産業、県内の特色ある地域	我が国の国土の様子と国民生活との関連	我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連	社会的な思考・判断・表現	資料活用に関する技能	社会的な事象についての知識・理解	選択式		短答式
1 (1)	(1) 地図記号が表している施設を理解している	○							○		○			81.9
1 (2)	(2) 町の地図から正しい内容を読み取ることができる	○							○		○			60.5
1 (3)	(3) 地図の情報から正しい位置を読み取ることができる	○							○		○			68.4
2 (2)	(4) スーパーマーケットの工夫について理解している	○							○		○			97.1
3 (1)	(5) 昔の人々の使っていた道具を理解している				○					○	○			98.5
3 (2)	(6) 道具の移り変わり、生活が便利になったことを説明することができる				○				○				○	70.1
4 (1)	(7) グラフから山口県ではリサイクルが盛んにおこなわれていることを読み取ることができる			○						○	○			85.2
4 (2)	(8) 3Rの意味と、具体的な取組を理解している			○						○	○			44.4
4 (3)	(9) リサイクルの推進は、貴重な資源の節約につながっていることを説明することができる			○					○				○	37.7
5 (1)	(10) 等高線の名称を理解している				○					○		○		6.9
5 (2)	(11) 等高線から、土地の高低や傾きを読み取ることができる				○					○	○			65.3
6 (1)	(12) 人口や産業の統計資料から、必要な情報を選び出すことができる					○				○	○			62.3
6 (2)	(13) 水産物がトラックによって県内各地へ輸送されることから、各地が道路でつながっていることを推測できる					○				○	○			67.1
7 (1)	(14) 日本と関わりのある国の名称や位置、国旗を理解している						○			○	○			36.6
7 (2)	(15) 地図や資料をもとにして、大陸名を答えることができる						○			○		○		43.6
8 (1)	(16) 日本の領土の範囲を理解している						○			○	○			69.2
8 (2)	(17) 日本の北方領土について理解している						○			○		○		22.5
8 (3)	(18) 気温の特徴をもとに地域を判断し、南西諸島の気候の特徴について説明することができる						○		○				○	29.3
9 (1)	(19) 資料を読み取り、誤っている事柄を選ぶことができる							○	○		○			52.9
9 (2)	(20) 米作りをする農家の工夫について資料をもとに説明することができる							○	○				○	45.7

小学校第5学年 理科

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	物質	6	65.7
	エネルギー	7	49.3
	生命	4	55.7
	地球	3	40.2
評価の観点	科学的な思考・表現	7	50.4
	観察・実験の技能	2	61.5
	自然事象についての知識・理解	11	55.2
問題形式	選択式	13	54.5
	短答式	4	53.5
	記述式	3	53.6

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			県全体正答率(%)	
		物質	エネルギー	生命	地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式		記述式
1 (1) (1)	飛行機が飛ぶ距離について、一つの実験方法とは別の方法を考えることができる	○				○			○			19.6
1 (2) (2)	ゴムは、ひっぱると元にもどろうとする力が働くことを理解している	○						○	○			41.6
2 (1) (3)	物の重さについて、物の形や物自体の増減とを関係付けて理解している	○						○	○			85.2
2 (2) (4)	引き合ったり退け合ったりする様子から、物の中に入っている磁石の性質を理解している	○							○			65.2
3 (1) (5)	日当たりについて、太陽の見た目の位置や影の向きとを関係付けて考えることができる				○	○			○			57.6
3 (2) (6)	物の重さの変化について、自然蒸発と関係付けて考えることができる	○				○				○		48.7
4 (1) (7)	太陽や月の見た目の位置の変化について、正しく理解している				○			○	○			44.4
4 (2) (8)	星や星座の見た目の位置の変化について、推察することができる				○			○	○			18.7
5 (1) (9)	モーターの回り方について、かん電池の向きと電流の向きとを関係付けて説明することができる	○				○				○		73.2
5 (2) (10)	直列つなぎと並列つなぎについて、モーターが回る速さや電流の大きさを関係付けて理解している	○						○	○			55.2
5 (2) (11)	直列つなぎと並列つなぎについて、モーターが回る速さや電流の大きさを関係付けて理解している	○						○	○			60.1
5 (3) (12)	回路について、スイッチのつなぎ方により働きに変化が生じることを理解し、説明することができる	○				○				○		30.1
6 (1) (13)	温度によって変わる水の姿を理解している	○						○		○		79.2
6 (2) (14)	水の体積変化について、温度変化や体積変化と関係付けて理解し、説明することができる	○						○		○		57.4
6 (3) (15)	空気の状態変化について、温度変化と関係付けて理解している	○				○			○			64.7
6 (3) (16)	空気の状態変化について、温度変化と関係付けて理解している	○				○			○			59.1
7 (1) (17)	発芽に必要な条件について、条件を制御した実験結果をもとに見出すことができる		○					○	○			39.6
7 (2) (18)	発芽に必要な条件について、結果をもとに、適切な実験方法を判断することができる		○				○		○			53.5
8 (1) (19)	メダカの飼育に関する基礎的な知識がある		○					○	○			60.3
8 (2) (20)	メダカの飼育について適切な条件を理解している		○				○		○			69.4

小学校第6学年 国語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	3	62.0
	書くこと	5	74.0
	読むこと	3	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	76.3
評価の観点	話す・聞く能力	3	62.0
	書く能力	5	74.0
	読む能力	3	65.0
	言語についての知識・理解・技能	9	76.3
問題形式	選択式	12	75.8
	短答式	5	75.9
	記述式	3	49.7

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			県全体正答率(%)	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式		
1	一	(1)												87.9
1	二	(2)												78.0
1	三	(3)												58.7
2	一	(4)		○										90.5
2	一	(5)		○										76.0
2	一	(6)		○										78.7
2	二	(7)		○										73.6
2	三	(8)		○									○	51.4
2	四	(9)					○						○	96.1
2	四	(10)					○						○	91.0
2	四	(11)					○						○	82.7
2	四	(12)					○						○	49.2
2	四	(13)					○						○	60.6
3	一	(14)					○						○	70.4
3	一	(15)					○						○	48.1
3	二	(16)					○						○	76.4
4	一	(17)		○									○	78.4
4	二	(18)		○									○	58.1
4	三	(19)		○									○	49.5
4	四	(20)					○						○	82.6

小学校第6学年 算数

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	64.6
	量と測定	1	27.6
	図形	4	39.9
	数量関係	8	48.9
評価の観点	数学的な考え方	7	51.7
	数量や図形についての技能	7	59.2
	数量や図形についての知識・理解	6	42.4
問題形式	選択式	6	59.8
	短答式	10	47.4
	記述式	4	49.4

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			県全体正答率(%)	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式		記述式
1 (1) (1)	異分母の分数の加法の計算をすることができる	○				○			○			71.2
1 (2) (2)	分数の乗法及び除法の計算をすることができる	○				○			○			81.3
2 (1) (3)	計算のきまりを使って、工夫して計算することができる	○				○				○		73.1
2 (2) (4)	小数の除法の計算のきまりを理解している	○					○	○				79.7
2 (3) (5)	数を四捨五入して、概数で表すことができる	○				○		○				60.2
2 (4) (6)	1個分ジュースの量の見当をつけるために平均の考えを活用し、ジュースの体積を求めることができる		○			○			○			27.6
3 (7)	単位量当たりの大きさを求める除法の式を読み、商の表す意味を考えることができる				○	○			○			69.3
4 (8)	辺や面のつながりや位置関係に着目して、立方体の展開図をかく方法を考えることができる			○		○			○			54.6
5 (1) (9)	1に当たる大きさを求める問題場面における数量関係を理解し、数直線に表すことができる	○						○	○			51.5
5 (2) (10)	1に当たる大きさを求める問題場面では、除法を用いることを理解している	○						○	○			35.1
6 (11)	円に内接する正方形の対角線が、円の直径と等しくなる性質に着目して求積することができる			○		○			○			23.4
7 (12)	問題場面を把握し、解決に必要な情報を抽出することができる				○	○			○			43.6
8 (1) (13)	数量の変化に着目して、●の数の変化を表にまとめることができる				○	○			○			84.6
8 (2) (14)	xやyを用いて、数量の関係を式に表すことができる				○	○			○			64.1
8 (3) (15)	他者の説明から●の数え方の着眼点を見抜き、条件が変わった場合にも同じ着眼点から説明することができる				○	○				○		52.0
9 (1) (16)	部分の割合に着目して、複数のグラフを見比べながら比較し、あてはまるものを選ぶとともに、その理由を説明することができる				○	○				○		54.9
9 (2) (17)	比較量とその割合から、基準量を求めることができる				○	○			○			16.1
10 (1) (18)	三角形の2つの辺の長さが円の半径であることを基に、二等辺三角形ができる理由を記述することができる			○				○		○		17.4
10 (2) (19)	2つの円の半径が等しいことから、正三角形ができることを理解している			○				○	○			64.3
11 (20)	必要な数値を抽出して、値段の差がA店の値段の10%にあたることを式で表すことができる				○			○	○			6.4

中学校第1学年 国語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0	—
	書くこと	3	26.5
	読むこと	12	63.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	69.5
評価の観点	話す・聞く能力	0	—
	書く能力	3	26.5
	読む能力	12	63.3
	言語についての知識・理解・技能	10	69.5
問題形式	選択式	8	69.1
	短答式	14	64.4
	記述式	3	26.5

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			県全体正答率(%)	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式		記述式
1	一	(1)	文脈に即して、適切な語句を選択する(きらきら)			○			○			96.4
1	二	(2)	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			○				○		82.6
1	三	(3)	登場人物の心情を捉えて、適切なものを選択する			○			○			66.4
1	四	(4)	場面の展開に応じて、適切に書く			○				○		48.5
1	五	(1)	(5) 表現の技法を理解する			○			○			77.6
1	五	(2)	(6) 内容を的確に捉え、必要な情報を取り出す			○				○		25.7
1	五	(3)	(7) 場面の展開に応じて、情報を整理し自分の考えをわかりやすく伝える	○							○	44.7
2	一	(1)	(8) 内容を的確に捉え、必要な情報を取り出す			○				○		93.6
2	一	(2)	(9) 内容を的確に捉え、必要な情報を取り出す			○				○		67.2
2	一	(3)	(10) 目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈する			○			○			80.5
2	二	(11)	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	○							○	14.6
2	三	(1)	(12) 内容を的確に捉え、必要な内容を書き加える			○				○		39.1
2	三	(2)	(13) 内容を的確に捉え、必要な情報を取り出す			○				○		48.4
2	四	(3)	(14) 内容を的確に捉え、必要な情報を取り出す			○				○		59.5
3	一	A	(15) 文脈に即して、正しく漢字を書く(借りたい)			○			○	○		61.4
3	一	B	(16) 文脈に即して、正しく漢字を読む(あやまり)			○			○	○		83.6
3	二	ア	(17) 慣用句の意味を理解する(「猫の手も借りたい」)			○			○	○		86.8
3	二	イ	(18) 慣用句の意味を理解する(「水に流す」)			○			○	○		66.4
3	三	(19)	内容を的確に捉えて、適切なものを選択する			○			○	○		51.2
3	四	あ	(20) ことわざの意味を理解する(「猿も木から落ちる」)			○			○	○		76.8
3	四	い	(21) ことわざの意味を理解する(「一石二鳥」)			○			○	○		45.3
3	五	a	(22) ことわざの意味を理解する			○			○	○		74.7
3	六	(23)	語句の意味を理解して、適切に使うことができる			○			○	○		61.7
3	七	(1)	(24) 場面に応じて、伝える内容を検討する	○							○	20.2
3	七	(2)	(25) 時と場に応じて、適切な敬語を使う(おっしゃる)			○			○	○		60.8

中学校第1学年 数学

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と式	17	57.3
	図形	3	57.3
	関数	2	56.0
	資料の活用	3	80.4
評価の観点	数学的な見方や考え方	4	43.8
	数学的な技能	16	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	60.5
問題形式	選択式	5	63.7
	短答式	17	62.7
	記述式	3	38.7

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			県全体正答率(%)
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	
1 (1)	(1) 分数の乗法の計算ができる	○				○			○			89.2
1 (2)	(2) 計算のきまりにしたがって計算することができる	○				○			○			60.5
1 (3)	(3) 指数を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○			○			51.7
1 (4)	(4) 絶対値の意味を理解している	○						○	○			48.7
1 (5)	(5) 正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	○						○	○			39.9
1 (6)	(6) 数の集合と四則計算の可能性について理解している	○						○	○			65.6
2 (1)	(7) 整式の減法の計算ができる	○				○			○			49.5
2 (2)	(8) 限られた範囲の倍数を求めることができる	○				○			○			71.1
2 (3)	(9) 速さ、時間、道のりの関係から、時間を求めることができる	○				○			○			76.2
3 (1)	(10) 数量の関係を等式で表すことができる	○				○			○			86.0
3 (2)	(11) 基準量を基に比較量を求めることができる	○				○			○			14.2
3 (3)	(12) 不等式の間接を、具体的な事象に関連付けて解釈することができる	○				○			○			64.7
4 (1)	(13) 比例の意味を理解している			○				○	○			58.7
4 (2)	(14) 比例関係を用いて、具体量を求めることができる			○		○			○			53.3
5 (1)	(15) 展開図から重なる点を読み取ることができる		○			○			○			80.2
5 (2)	(16) 円グラフを読み取り、数量を求めることができる				○	○			○			55.7
6 (1)	(17) 表から柱状グラフに表すことができる				○	○			○			96.2
6 (2)	(18) 表から読み取った事柄を的確に評価することができる				○			○	○			89.4
7	(19) 2つの図形の面積が等しくなることを式を使って説明することができる		○			○				○		36.9
8	(20) 平行四辺形の面積を求めることができる		○			○			○			54.9
9 (1)	(21) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○			77.1
9 (2)	(22) 最小公倍数に着目して、求める方法を説明することができる	○				○				○		46.9
10 (1)	(23) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○			41.9
10 (2)	(24) 事象と式の対応を的確に捉え、文字式の成り立ちを説明することができる	○				○				○		32.2
10 (3)	(25) 事柄について、文字式を用いて表すことができる	○				○			○			59.3

中学校第2学年 国語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0	—
	書くこと	3	21.4
	読むこと	8	53.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	14	58.5
評価の観点	話す・聞く能力	0	—
	書く能力	3	21.4
	読む能力	8	53.4
	言語についての知識・理解・技能	14	58.5
問題形式	選択式	6	60.6
	短答式	16	53.5
	記述式	3	31.0

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			県全体正答率(%)	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式		記述式
1	—	(1)											68.8
	—	(2)											56.8
	二	(3)											37.0
	二	(4)											44.7
	三	(5)											65.9
	四	(6)											—
	五	(7)											10.2
	六	(8)											40.6
2	—	②	(9)										78.8
	—	③	(10)										73.5
	二	(11)											51.8
	三	(12)											76.4
	四	(13)											39.1
	五	あ	(14)										64.6
	五	い	(15)										40.0
	五	う	(16)										29.6
3	—	(17)											84.7
	—	(18)											53.6
	—	(19)											75.8
	二	あ	(20)										46.8
	二	い	(21)										50.5
	三	(22)											40.7
	四	(23)											62.6
	五	(24)											46.4
	六	(25)											13.4

中学校第2学年 数学

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	数と式	11	66.2
	図形	7	47.0
	関数	4	45.4
	資料の活用	3	45.5
評価の観点	数学的な見方や考え方	5	27.5
	数学的な技能	14	59.9
	数量や図形などについての知識・理解	6	66.5
問題形式	選択式	8	65.9
	短答式	13	57.9
	記述式	4	24.0

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			県全体正答率(%)
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	
1 (1)	(1) 分数の減法の計算ができる	○				○			○			85.8
1 (2)	(2) 計算のきまりにしたがって計算することができる	○				○			○			81.3
1 (3)	(3) 正の数と負の数の乗法について計算することができる	○				○			○			68.7
1 (4)	(4) 正の数と負の数の乗法について理解している	○						○	○			57.6
2 (1)	(5) 多項式どうしの減法の計算ができる	○				○			○			74.8
2 (2)	(6) 等式を目的に応じて変形することができる	○				○			○			49.4
2 (3)	(7) 連立方程式を解くことができる	○				○			○			77.2
2 (4)	(8) 2桁の自然数を文字式で表すことができる	○				○			○			71.9
2 (5)	(9) 与えられた等式を、具体的な事象に関連付けることができる	○				○		○	○			77.9
3 (1)	(10) 反比例の表の特徴を理解している			○				○	○			67.6
3 (2)	(11) 比例のグラフの特徴を理解している			○				○	○			84.0
4	(12) 垂直二等分線の性質を理解している		○					○	○			66.3
5 (1)	(13) 円柱について、底面の円周の長さや展開図の側面の辺の長さが等しいことを用いて求めたい長さを求めることができる	○				○			○			42.3
5 (2)	(14) 示された投影図を読み取り、適切な空間図形を選択することができる	○						○	○			63.4
5 (3)	(15) 回転移動した角の大きさを正しく求めることができる	○				○			○			43.4
6	(16) 立方体の面上の直線と直線の位置関係について説明することができる		○			○				○		22.2
7 (1)	(17) 反比例の関係を利用して、必要な数量を求めることができる			○		○			○			18.6
7 (2)	(18) 反比例の関係を式に表すことができる			○		○			○			11.4
8 (1)	(19) 文字を用いて周の長さを表すことができる	○				○			○			67.5
8 (2)	(20) 長方形の面積の大きさの違いを求める方法を説明することができる		○			○				○		23.9
9 (1)	(21) 度数分布表を理解している				○			○	○			60.2
9 (2)	(22) 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				○	○				○		34.9
9 (3)	(23) 目的に応じて、ヒストグラムをつくり変えることができる				○	○			○			41.4
10 (1)	(24) 与えられた等式についてどの数量関係に着目しているかを選択することができる	○				○			○			68.7
10 (2)	(25) 方程式をつくるときに表現しきれなかった条件に気づき、具体的な場面に即して再検討することができる	○				○				○		15.0

中学校第2学年 社会（地理的分野）

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数（問）	県全体正答率（%）
学習指導要領の領域	世界の地域構成	2	70.6
	世界各地の人々の生活と環境	2	74.9
	世界の諸地域	5	33.5
	世界のさまざまな地域の調査	0	
	日本の地域構成	2	64.6
	世界と比べた日本の地域的特色	2	37.6
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	5	37.3
	資料活用の技能	2	74.4
	社会的事象についての知識・理解	6	54.6
問題形式	選択式	6	61.9
	短答式	2	52.3
	記述式	5	37.3

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域						問題形式			県全体正答率（%）		
		世界の地域構成	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	世界のさまざまな地域の調査	日本の地域構成	世界と比べた日本の地域的特色	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解		選択式	短答式
1 (1) (1)	主な海洋の位置を理解している	○								○	○		71.4
1 (2) (2)	地図の特性を理解し、東京からの距離を調べることができる	○							○		○		69.7
2 (1) (3)	宗教と日常生活との関わりを理解している		○							○		○	70.6
2 (2) (4)	人々の暮らしと気温図を関連付けて選択することができる		○						○		○		79.1
3 (1) (5)	日本の範囲について理解している					○				○	○		69.5
3 (2) (6)	排他的経済水域の必要性について説明することができる					○		○				○	59.6
4 (1) (7)	モノカルチャー経済の課題について説明することができる			○				○				○	26.2
4 (2) (8)	アフリカ州の歴史的背景について説明することができる			○				○				○	36.4
4 (3) (9)	アフリカ州の特徴的な国や産業について理解している			○					○		○		34.0
5 (1) (10)	アジア州の主な国の特徴について理解している			○					○	○			40.0
5 (2) (11)	インドの特徴について、複数の資料を関連付けて説明することができる			○				○				○	30.9
6 (1) (12)	世界の主な河川の特徴について理解している						○		○	○			41.8
6 (2) (13)	日本の河川の特徴について説明することができる						○	○				○	33.4

中学校第2学年 社会（歴史的分野）

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数（問）	県全体正答率（%）
学習指導要領の領域	歴史のとらえ方	3	42.5
	古代までの日本	2	35.9
	中世の日本	7	37.4
	近世の日本	0	
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	2	38.8
	資料活用の技能	1	74.5
	社会的事象についての知識・理解	9	34.3
問題形式	選択式	6	47.9
	短答式	5	22.1
	記述式	1	63.0

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			県全体正答率（%）
		歴史のとらえ方	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	選択式	短答式	
7 (1) (14)	時代区分について理解している	○					○	○			67.8
7 (2) (15)	時代を代表する人物を理解している	○					○	○			35.9
8 (1) (16)	奈良時代の農民の生活について理解している		○				○	○			51.0
8 (2) (17)	古代の東アジアの国々との争いについて理解している		○				○		○		20.7
8 (3) (18)	鎌倉時代の主な争いについて理解している			○			○		○		7.3
8 (4) (19)	正長の土一揆の意義について複数の資料をもとに適切な語句を入れることができる			○	○				○		14.5
9 (1) (20)	長篠の戦いについて理解している			○			○		○		52.6
9 (2) (21)	元寇後の様子について理解している			○			○	○			34.4
9 (3) (22)	各時代の外交に関するできごとを理解している	○					○	○			23.7
10 (1) (23)	太閤検地の意義について理解している			○			○		○		15.5
10 (2) (24)	刀狩の目的を説明することができる			○	○					○	63.0
10 (3) (25)	太閤検地と刀狩を兵農分離と関連付けて理解している			○	○		○		○		74.5

中学校第2学年 理科

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の領域	物質	9	50.9
	エネルギー	6	49.5
	生命	7	54.5
	地球	3	36.0
評価の観点	科学的な思考・表現	7	33.5
	観察・実験の技能	3	57.0
	自然事象についての知識・理解	15	55.9
問題形式	選択式	7	63.7
	短答式	10	47.5
	記述式	8	40.5

設問別集計結果

設問番号		出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			県全体正答率 (%)	
			物質 エネルギー	生命	地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式		短答式
1	(1)あ	(1) 被子植物と裸子植物の特徴のちがいを理解している		○			○	○	○	○	40.9
1	(1)い	(2) 被子植物が単子葉類と双子葉類に分類され、さらに双子葉類が合弁花類と離弁花類に分類されることを理解している		○			○	○	○	○	74.6
1	(1)う	(3) 合弁花類と離弁花類を分類する観点について理解している		○			○	○	○	○	48.3
1	(2)	(4) 単子葉類の茎の維管束の並び方の特徴について理解している		○			○			○	38.8
2	(1)	(5) 「重さ」と「質量」の違いを理解している	○				○	○	○	○	34.2
2	(2)	(6) メスシリンダーを使用して物質の体積を求めることができる	○				○		○	○	47.6
2	(3)	(7) グラフから物質の密度を読み取る方法を説明することができる	○				○			○	10.6
3	(1)	(8) 凸レンズによる像の名称を理解している		○			○	○	○	○	36.2
3	(2)	(9) 凸レンズによる光の屈折の特徴を理解している		○			○			○	54.6
3	(3)	(10) 凸レンズによる像のでき方の規則性を説明することができる		○			○			○	32.4
4	(1)	(11) モノコードにおける音を高くする方法を理解している		○			○	○	○	○	66.9
4	(2)	(12) オシロスコープの波形の特徴を理解している		○			○	○	○	○	60.3
4	(3)	(13) 対照実験の意義とその方法を理解している		○			○			○	46.7
5	(1)	(14) マグマの粘り気と火山の形との関係性を理解している			○		○	○	○	○	63.2
5	(2)	(15) 岩石の色と鉱物の割合の関係性を理解している			○	○				○	20.2
5	(3)	(16) 火成岩の特徴から岩石の種類を判別できる			○	○			○	○	24.5
6	(1)	(17) 炭酸水素ナトリウムを加熱する際に行う操作の意味を理解している	○				○	○	○	○	68.8
6	(2)	(18) 炭酸水素ナトリウムを加熱すると二酸化炭素が発生することと、二酸化炭素の化学式について理解している	○				○		○	○	74.1
6	(3)	(19) 実験の手順や表の情報を基に、実験の結果からわかることは何かを理解している	○				○		○	○	36.2
7	(1)	(20) 化学変化が、反応前後で原子の種類と数は変わらないがその組み合わせが変わることによって、反応前とは別の物質ができることを理解している	○				○	○	○	○	39.5
7	(2)	(21) 2種類以上の原子が組み合わさってできている物質が化合物であることを理解し、化学式を見て単体か化合物かどうかを判別することができる	○				○	○	○	○	82.9
7	(3)	(22) 原子が結びついて分子になること、化学式の前にある数字が何を表しているかについて理解し、イメージしたことをモデル図で表すことができる	○				○			○	63.9
8	(1)	(23) 植物細胞と動物細胞の特徴の違いをつくりの違いで理解している		○			○			○	56.4
8	(2)	(24) 細胞の各つくりの名称と、核が染色液に染まりやすいことについて理解している		○			○		○	○	58.2
8	(3)	(25) 同じ形や働きをもった細胞が集まって組織を、何種類かの組織が組み合わさって器官を構成していることを理解している		○			○	○	○	○	64.2

中学校第2学年 英語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の領域	聞く	8	68.7
	読む	12	58.8
	書く	5	32.0
評価の観点	表現	5	32.0
	理解	17	62.3
	言語・文化	3	65.6
問題形式	選択式	15	72.0
	短答式	3	36.7
	記述式	7	32.3

設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			県全体正答率(%)
		聞く	読む	書く	表現	理解	言語・文化	選択式	短答式	記述式	
1 (1) 1)	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	○				○		○			94.1
1 (2) 2)	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	○				○		○			96.6
2 (1) 3)	日常的な話題についての質問に対して、適切に応じることができる	○				○		○			73.1
2 (2) 4)	日常的な話題についての質問に対して、適切に応じることができる	○				○		○			68.4
2 (3) 5)	日常的な話題についての質問に対して、適切に応じることができる	○				○		○			64.3
3 (1) 6)	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	○				○		○			87.0
3 (2) 7)	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	○				○				○	43.8
3 (3) 8)	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	○				○				○	22.0
4 (1) 9)	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる		○					○	○		82.6
4 (2) 10)	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる		○					○	○		46.7
4 (3) 11)	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる		○					○	○		67.5
5 (1) 12)	英語のポスターに関する質問に対して、必要な情報を読み取り、適切な対応を考えることができる		○			○		○			50.3
5 (2) 13)	英語のポスターに関する質問に対して、必要な情報を読み取り、適切な対応を考えることができる		○			○		○			70.8
5 (3) 14)	英語のポスターに関する質問に対して、必要な情報を読み取り、適切な対応を考えることができる		○			○		○			78.7
6 (1) 15)	まとまりのある英文を読み、書き手が求めているものを理解することができる		○			○		○			54.2
6 (2) 16)	まとまりのある英文を読み、書き手が伝えたい主旨を理解することができる		○			○		○			78.1
7 (1) 17)	文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる			○	○					○	63.8
7 (2) 18)	文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる			○	○					○	19.1
7 (3) 19)	文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる			○	○					○	22.6
8 (1) 20)	まとまりのある英文を読み、話の概要を理解することができる		○			○		○			66.9
8 (2)ア 21)	まとまりのある英文を読み、その内容に関する質問に対して適切に応じることができる		○			○				○	22.0
8 (2)イ 22)	まとまりのある英文を読み、その内容に関する質問に対して適切に応じることができる		○			○				○	35.5
8 (3) 23)	まとまりのある英文の中で代名詞が示している一文を理解し、書き写すことができる		○			○				○	52.6
8 (4) 24)	話の内容を理解し文脈に合うように内容を考えて、条件に沿った英文を書くことができる			○	○					○	28.7
8 (5) 25)	話の内容を踏まえて、社会的な話題に対する自分の考えを英語で書くことができる			○	○					○	26.0

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果

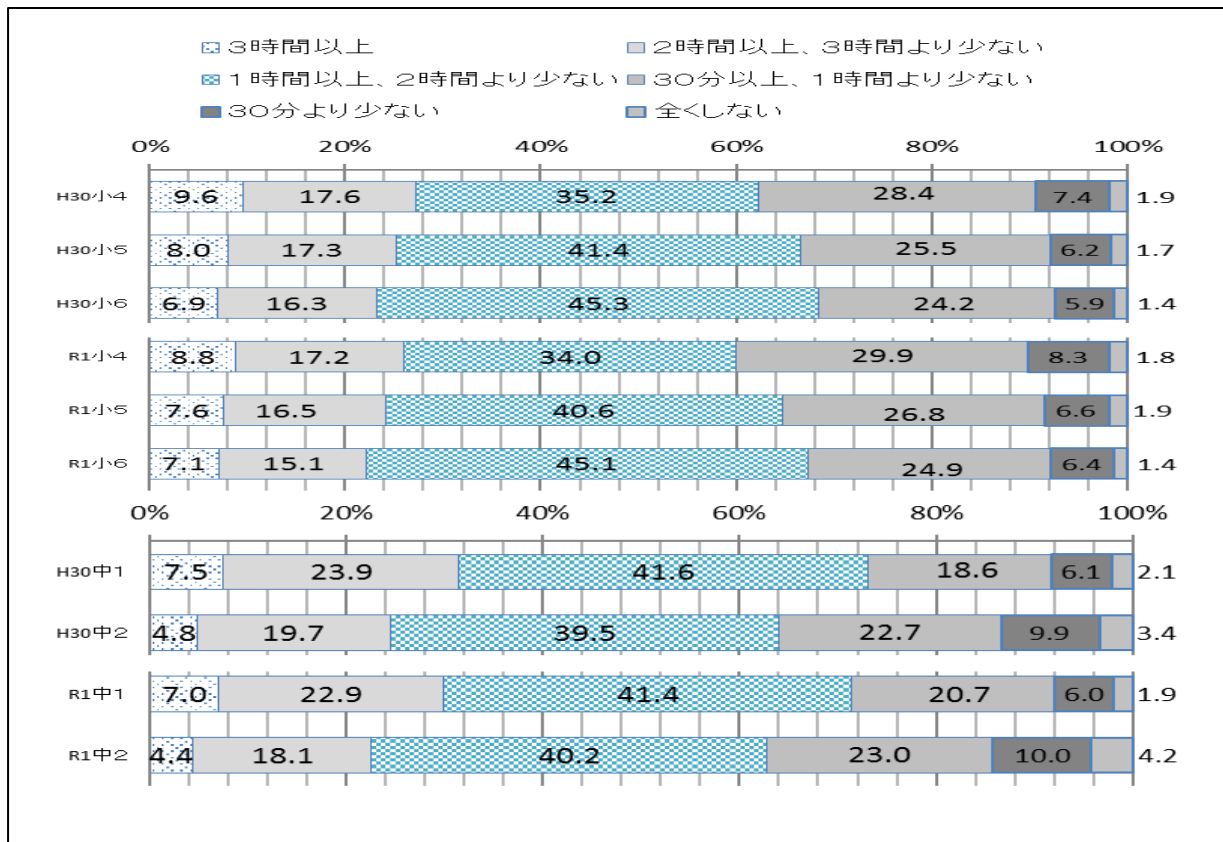
Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果 (○：成果 △：一部成果 ●：課題)

【家庭学習の習慣】

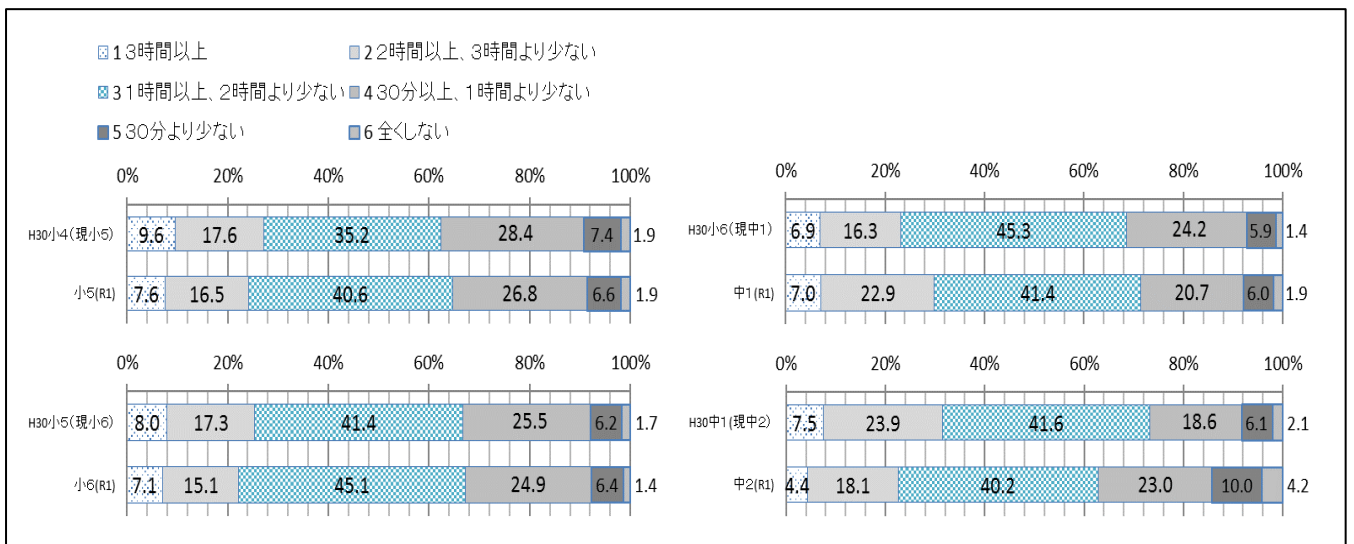
【質問1】学校の授業時間以外に、普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

- 「2時間以上」と回答した割合を、学年ごとに前年度と比較すると、全ての学年で減少している。
- 「2時間以上」と回答した割合を、同一の学年集団で比較すると、中学1年生では増加するが、その他の学年では減少している。

【前年度調査との比較(学年ごとの比較)】



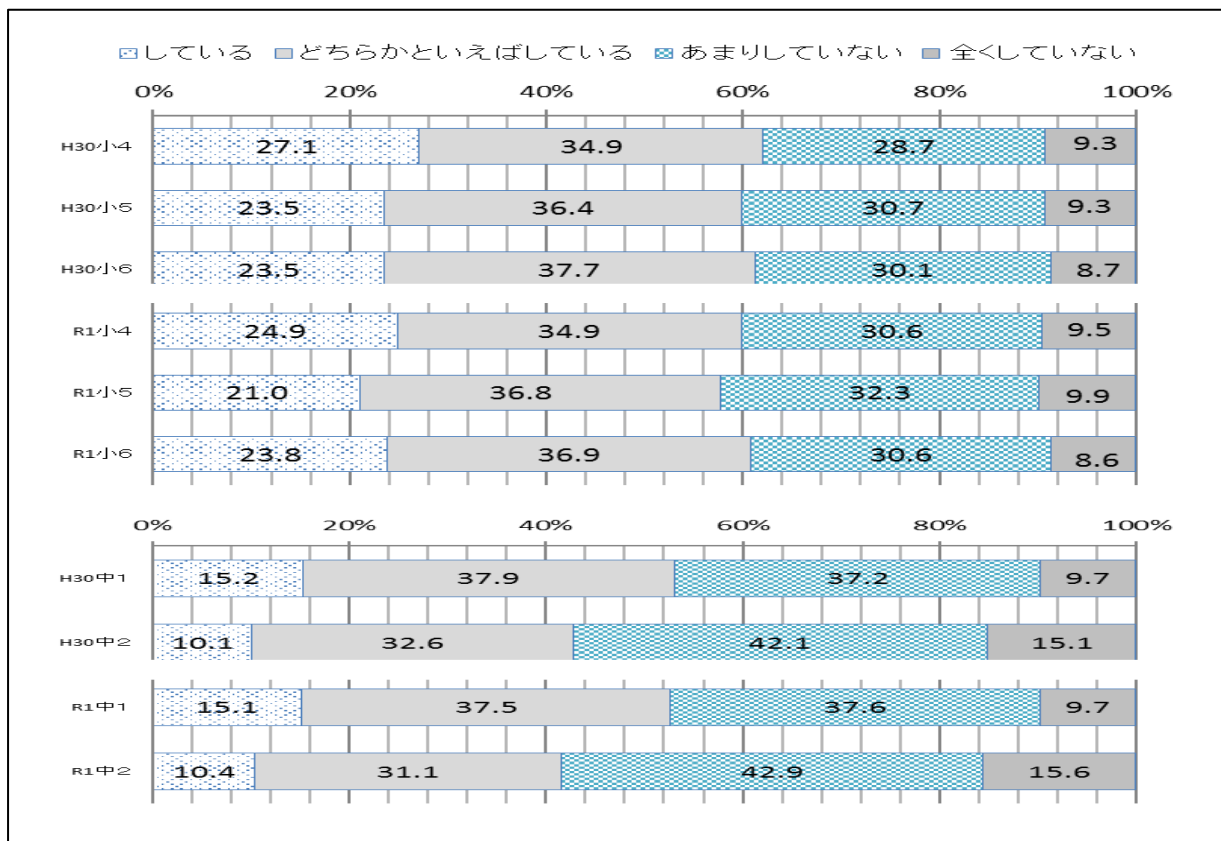
【前年度調査との比較(同一の学年集団で比較)】



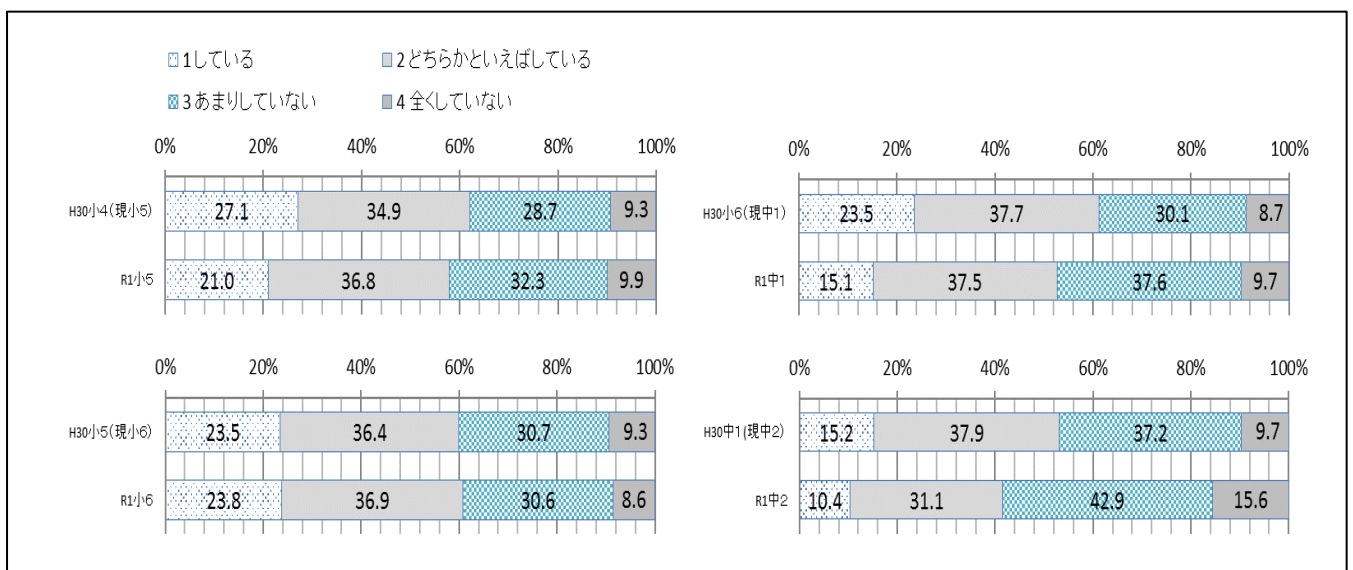
【質問2】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

- 肯定的な回答の割合を、学年ごとに前年度と比較すると、全ての学年で減少している。
- 「している」と回答した割合を、同一の学年集団で比較すると、小学6年生以外は減少している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】

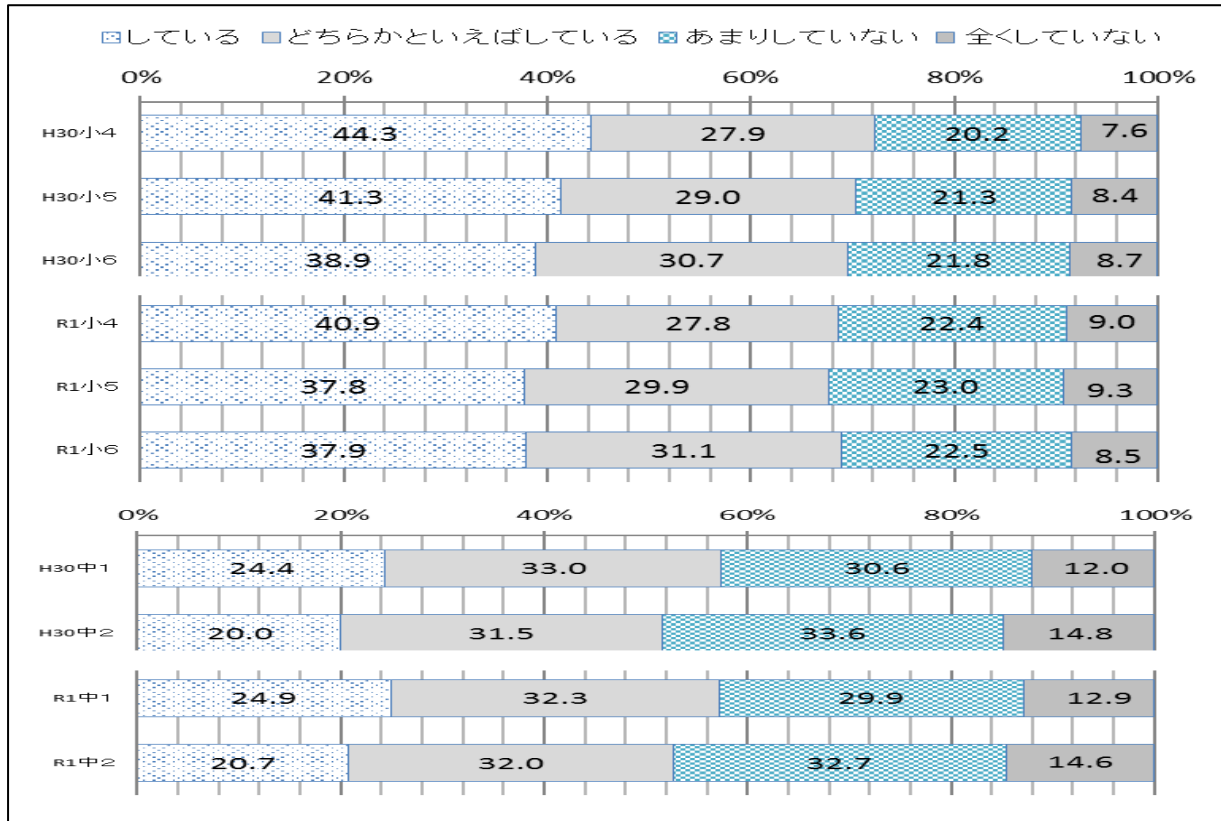


【社会に開かれた教育課程の実現】

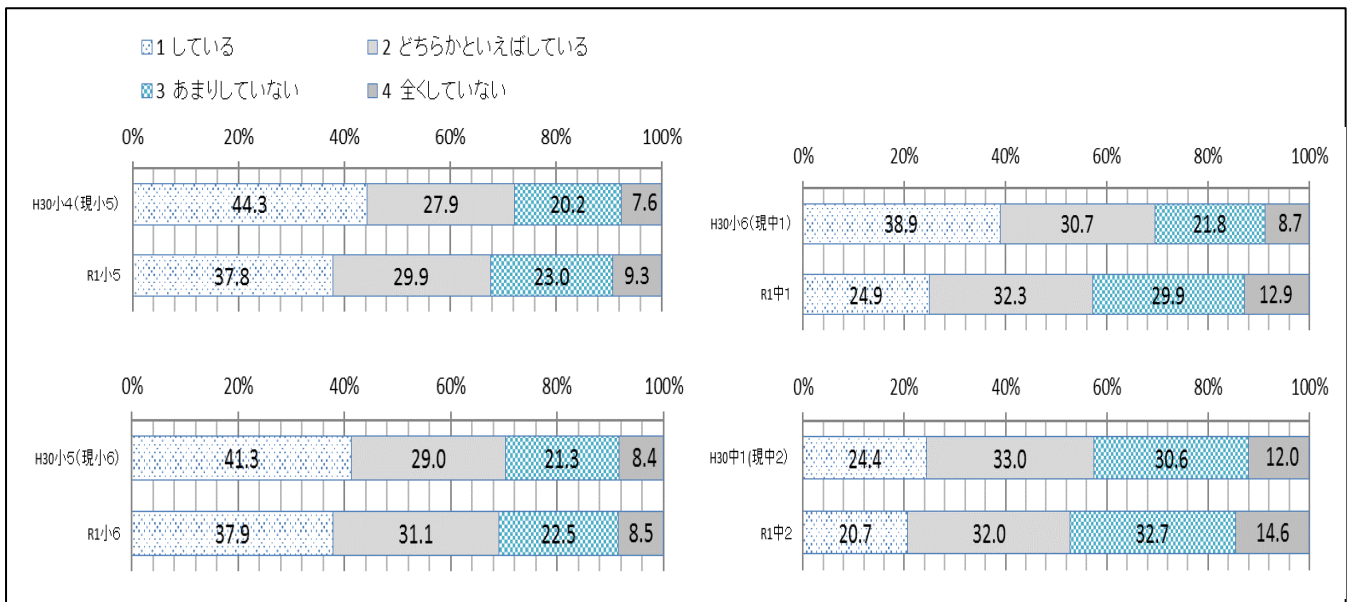
【質問3】今住んでいる地域の行事に参加していますか。

- 肯定的な回答の割合を、学年ごとに前年度と比較すると、中学2年生以外の学年で減少している。
- 「当てはまる」と回答した割合を、同一の学年集団で比較すると、全ての学年で減少している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



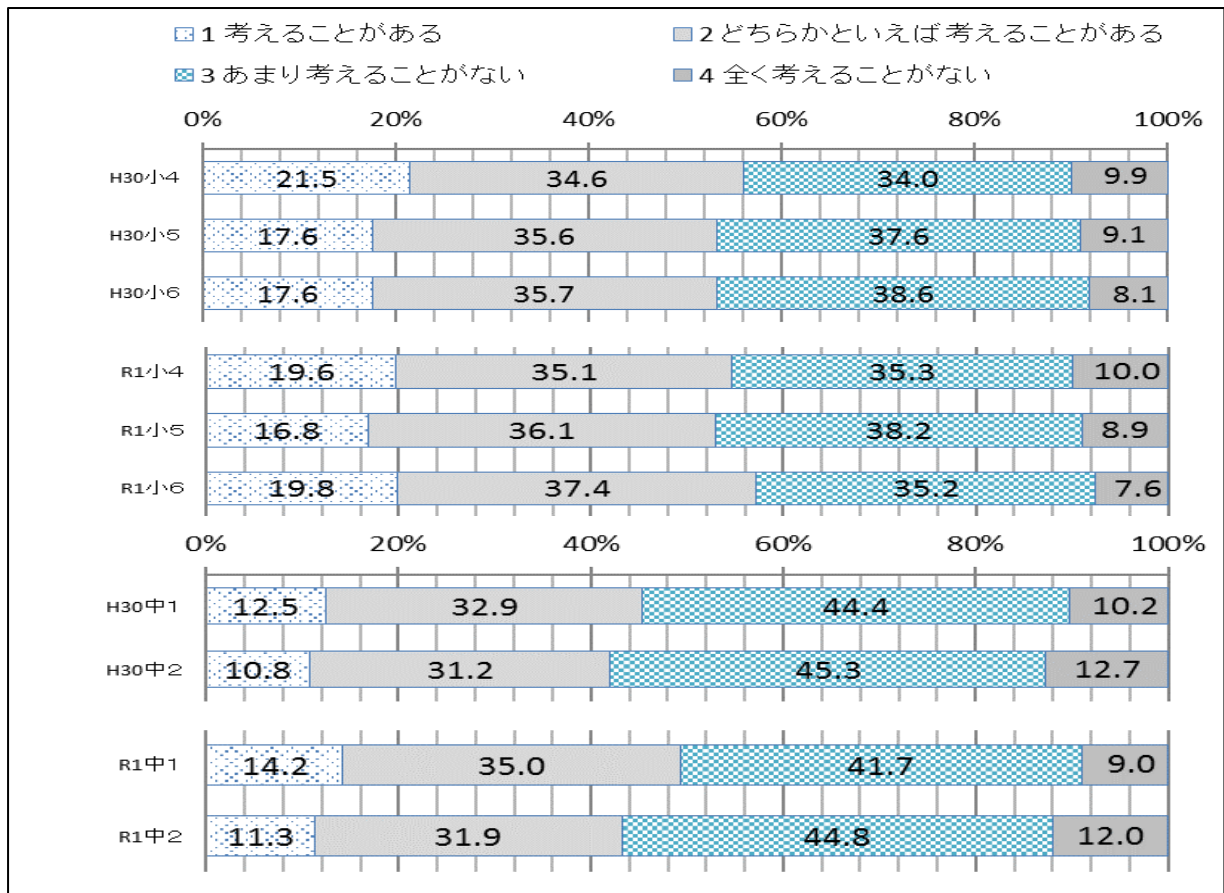
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



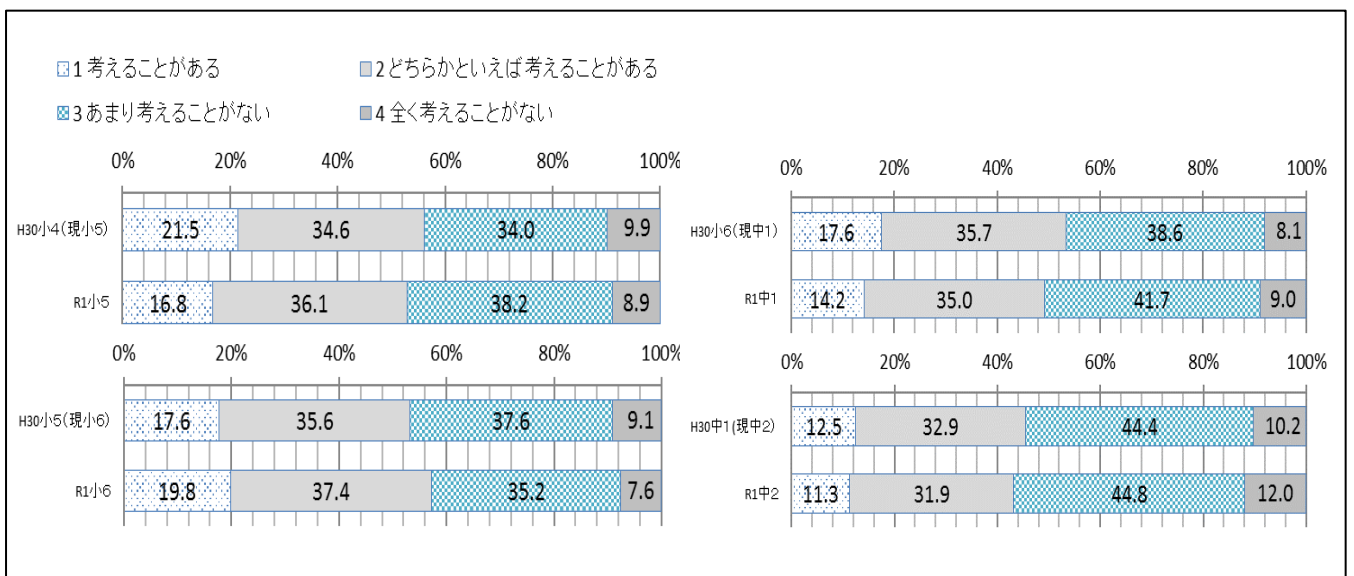
【質問4】 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

- △ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに前年度と比較すると、小学4・5年生では減少しているが、小学6年生、中学1・2年で増加している。
- 肯定的な回答の割合を、同一の学年集団で比較すると、小学6年生で増加しているが、小学5年生、中学1・2年生で減少している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】

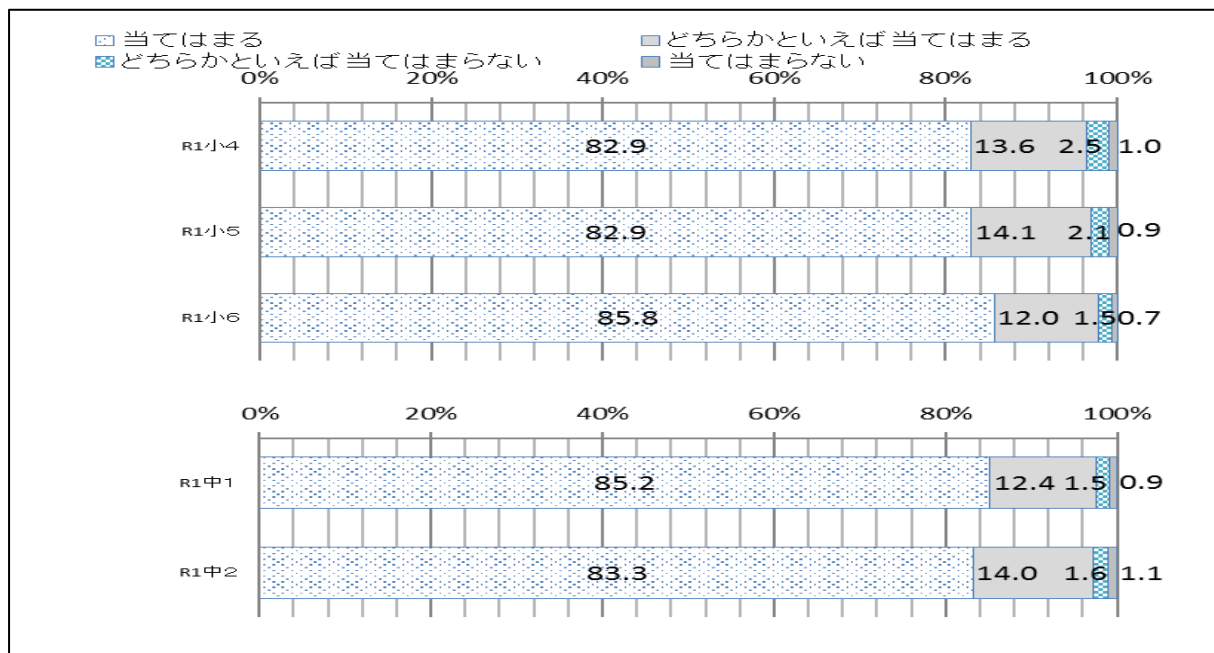


【子どもの意識】

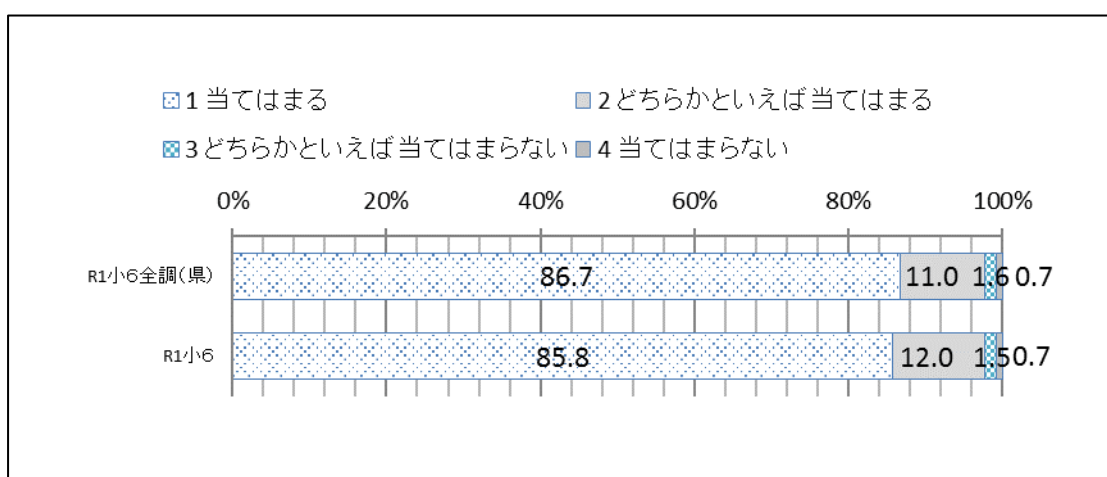
【質問5】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

- 肯定的な回答の割合は、全ての学年で 95%を上回る。
- 小学 6 年生において、肯定的な回答の割合は、4 月の全国学力・学習状況調査の結果から増加している。

【今年度調査の結果】



【平成 31 年度全国学力・学習状況調査との比較（小学校 6 年生）】

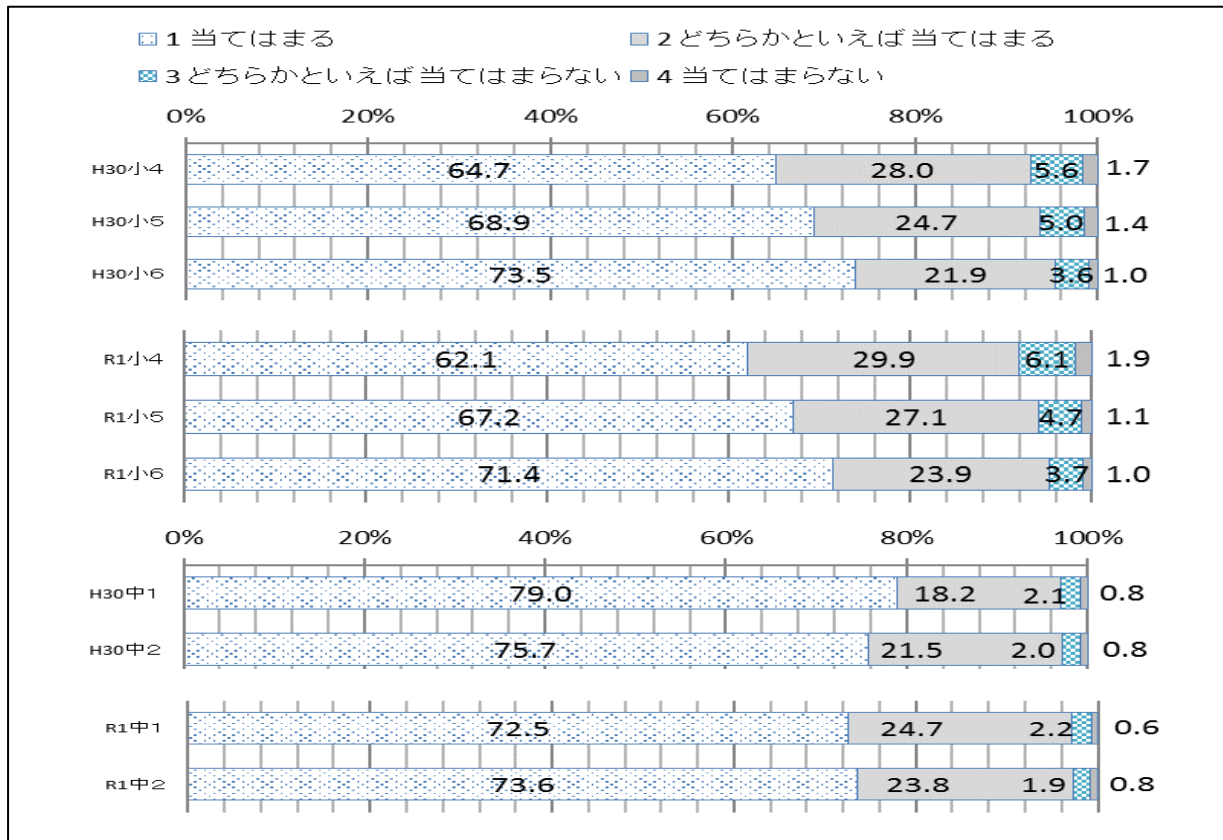


【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】

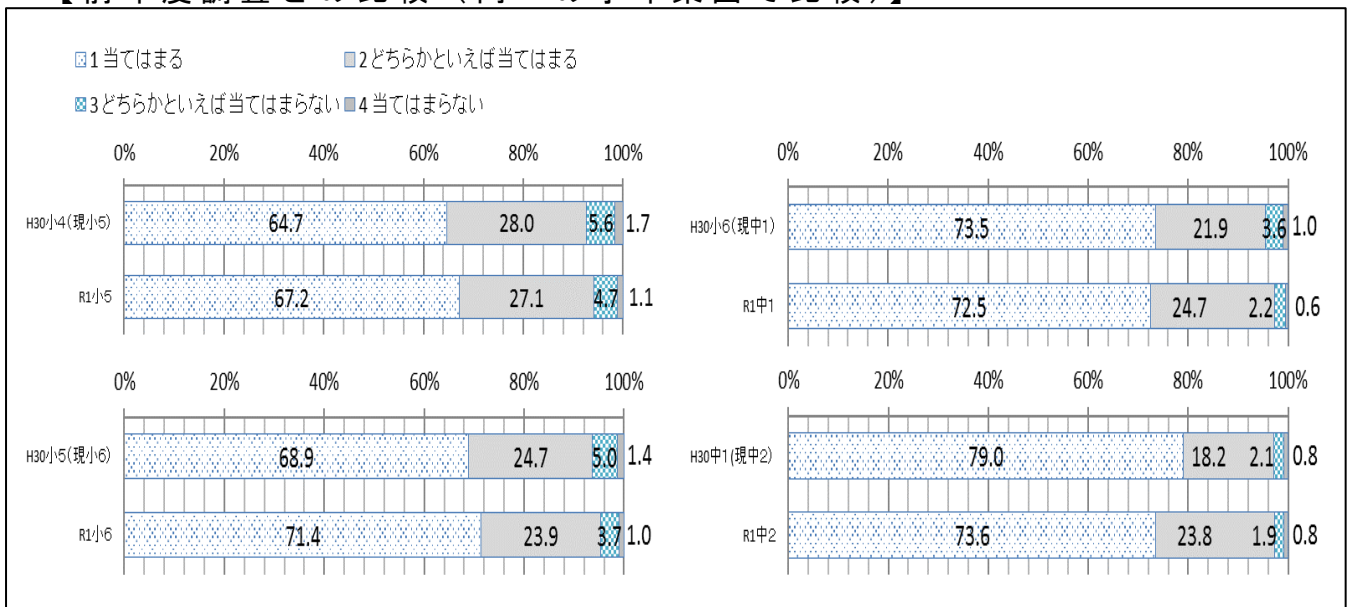
【質問6①】 授業の中で、授業の目標（めあて、ねらい）が示されていると思いますか。

- 「当てはまる」と回答した割合は、学年ごとに前年度と比較すると、全ての学年で減少している。
- 「当てはまる」と回答した割合を、同一の学年集団で比較すると、小学4・5年生で増加しているが、中学1・2年生で減少している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



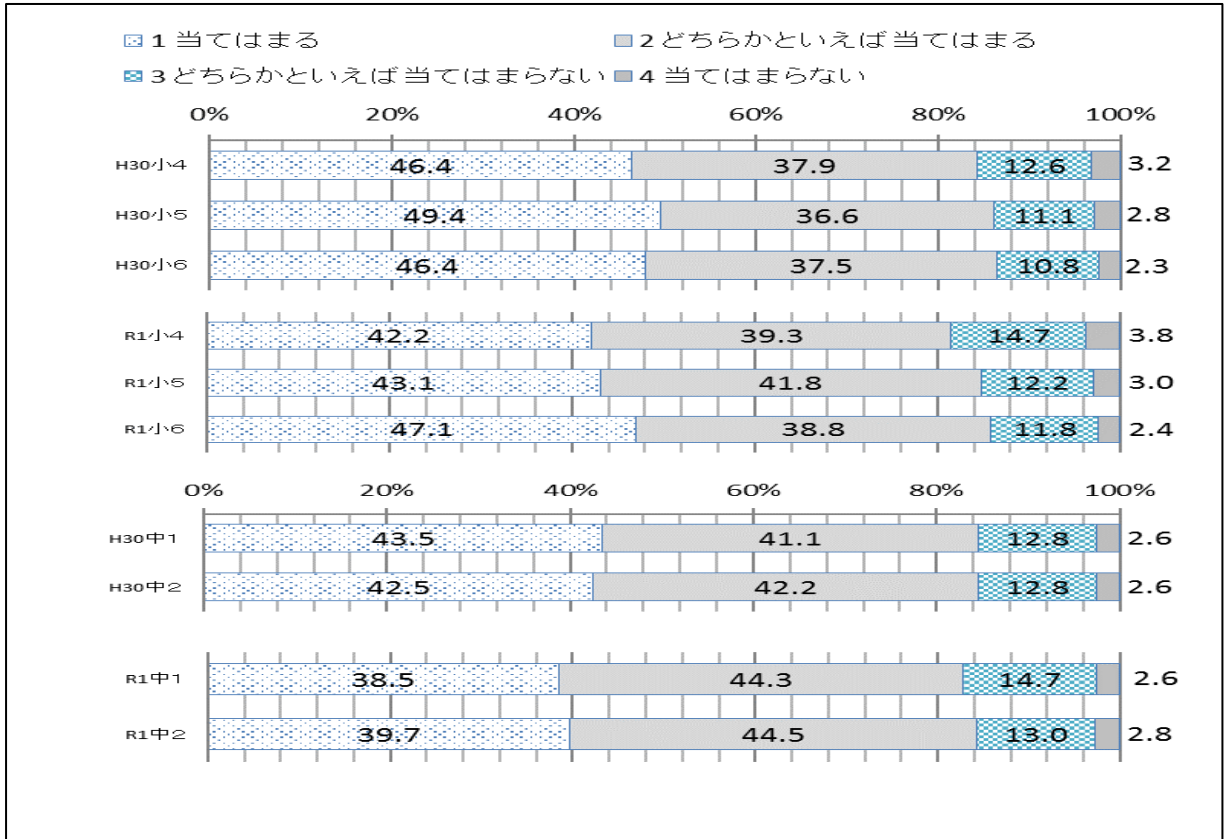
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



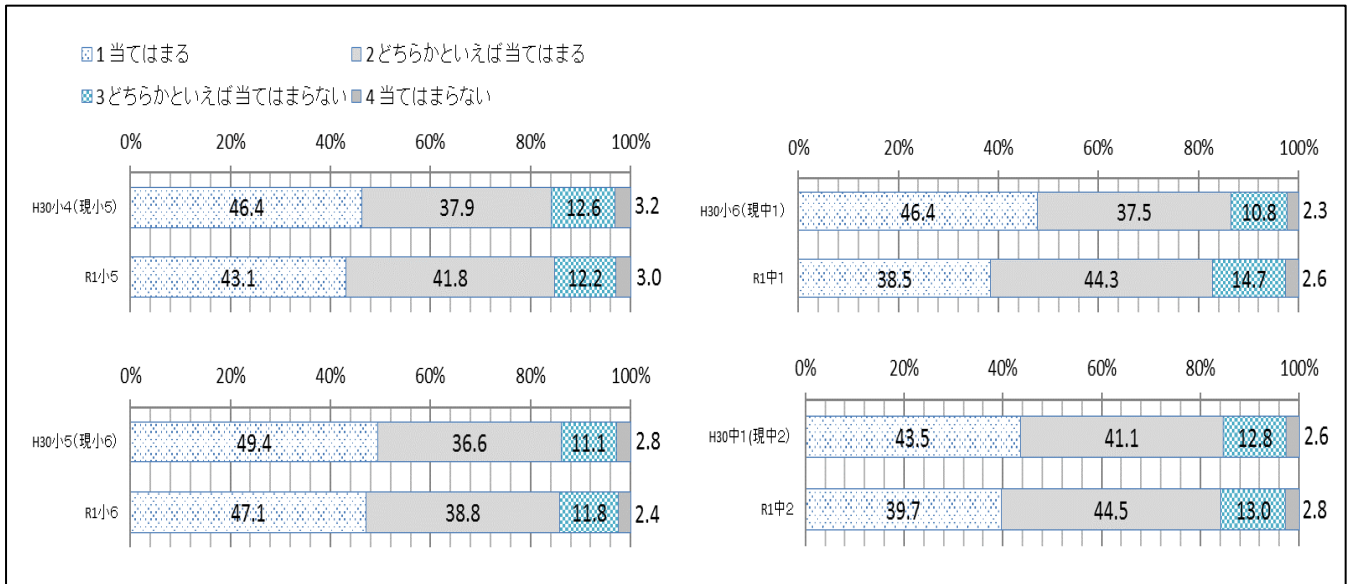
【質問6②】 授業の最後に、学習活動を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

- 「当てはまる」と回答した割合は、学年ごとに前年度と比較すると、小学6年以外の学年で減少している。
- 同一の学年集団で比較した場合も、全ての学年で「当てはまる」と回答した割合が減少している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



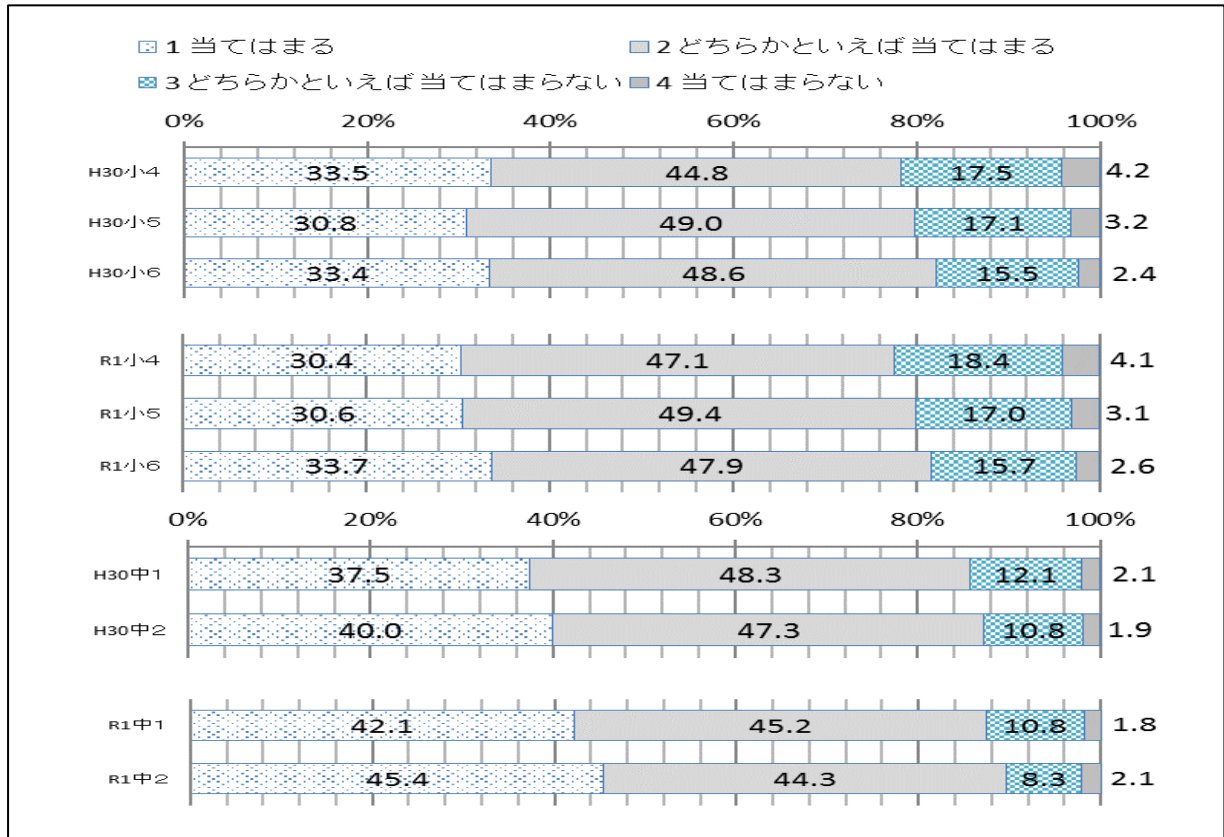
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



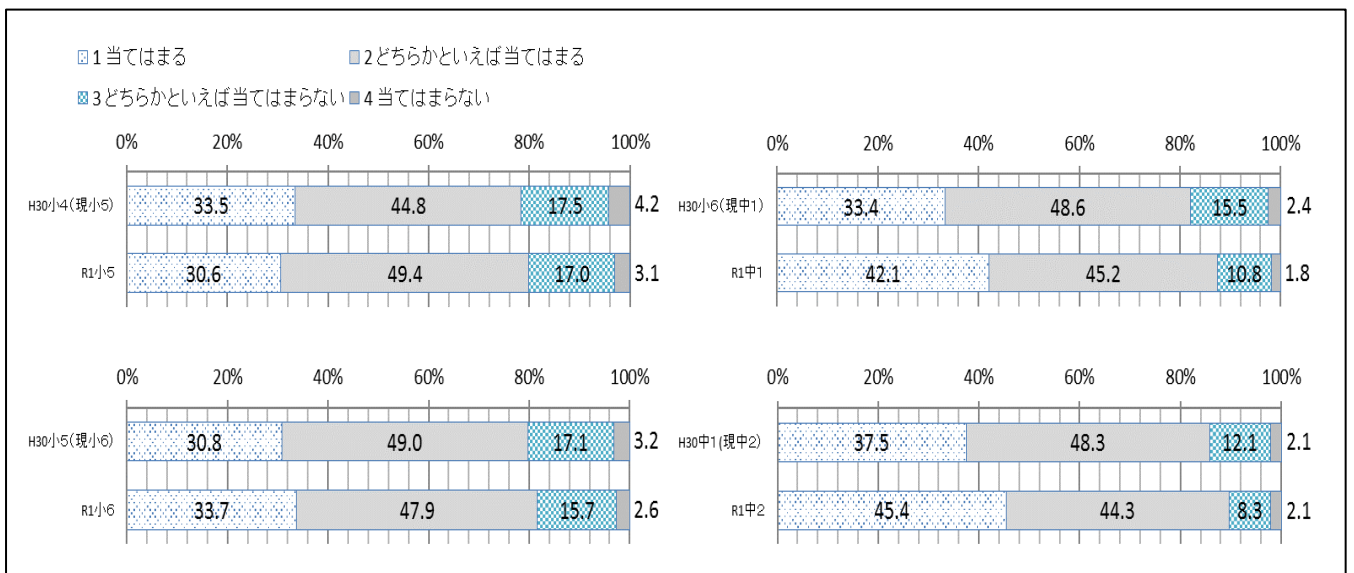
【質問6③】 授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思いますか。

- △ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに比較すると、小学校は大きな変化はないが、中学校は増加している。
- 同一の学年集団で比較した場合も、全ての学年で肯定的な回答の割合が増加している。特に、小学6年生以上の学年で、「当てはまる」と回答した割合が増加している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



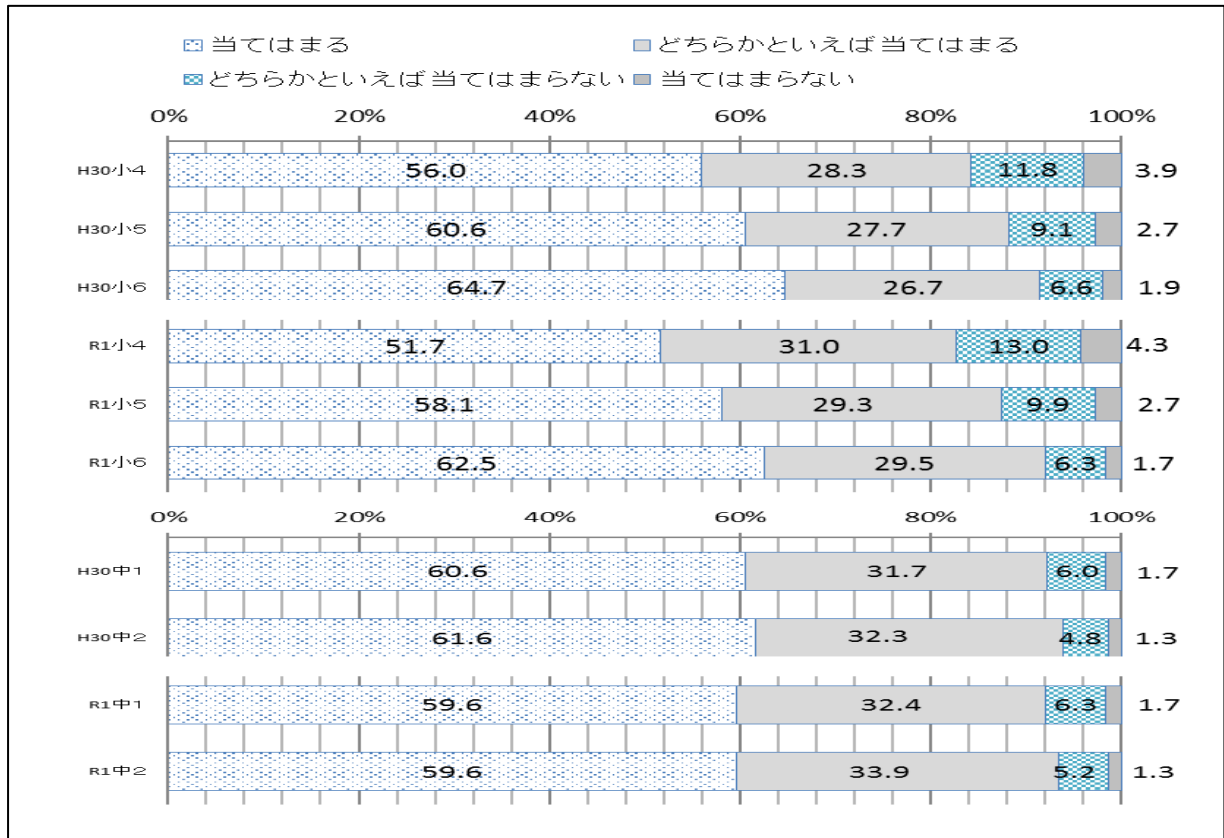
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



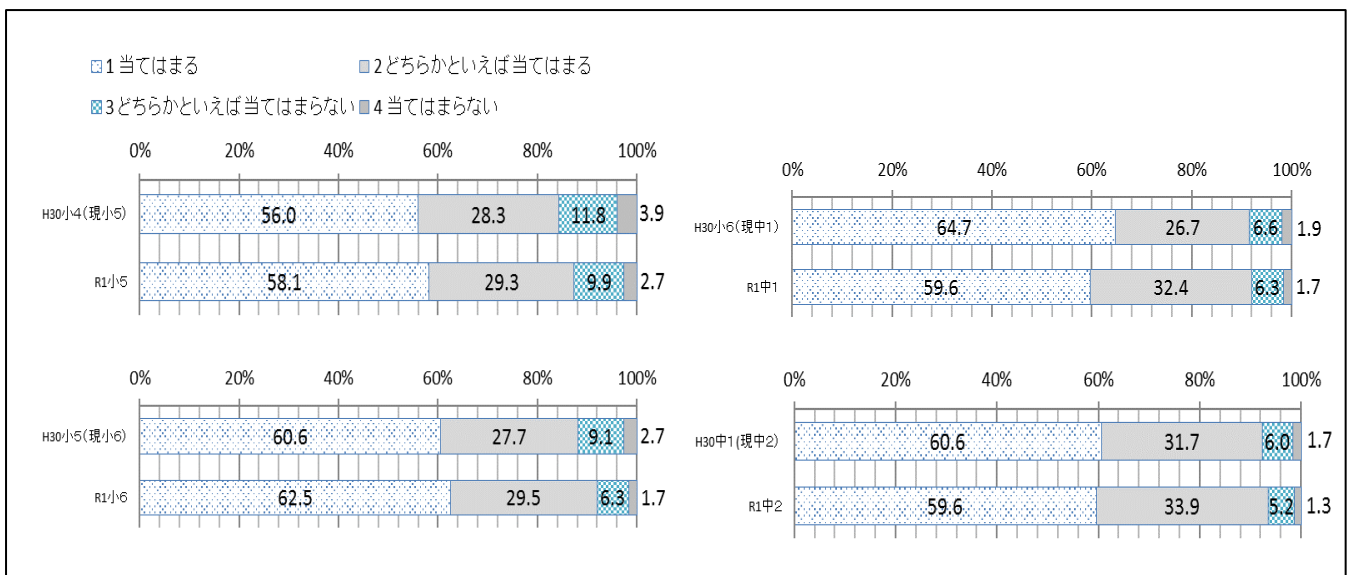
【質問6④】授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。

- △ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに前年度調査と比較すると、小・中学校とも、大きな変化はない。
- 肯定的な回答の割合を、同一の学年集団で比較すると、全ての学年で増加している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



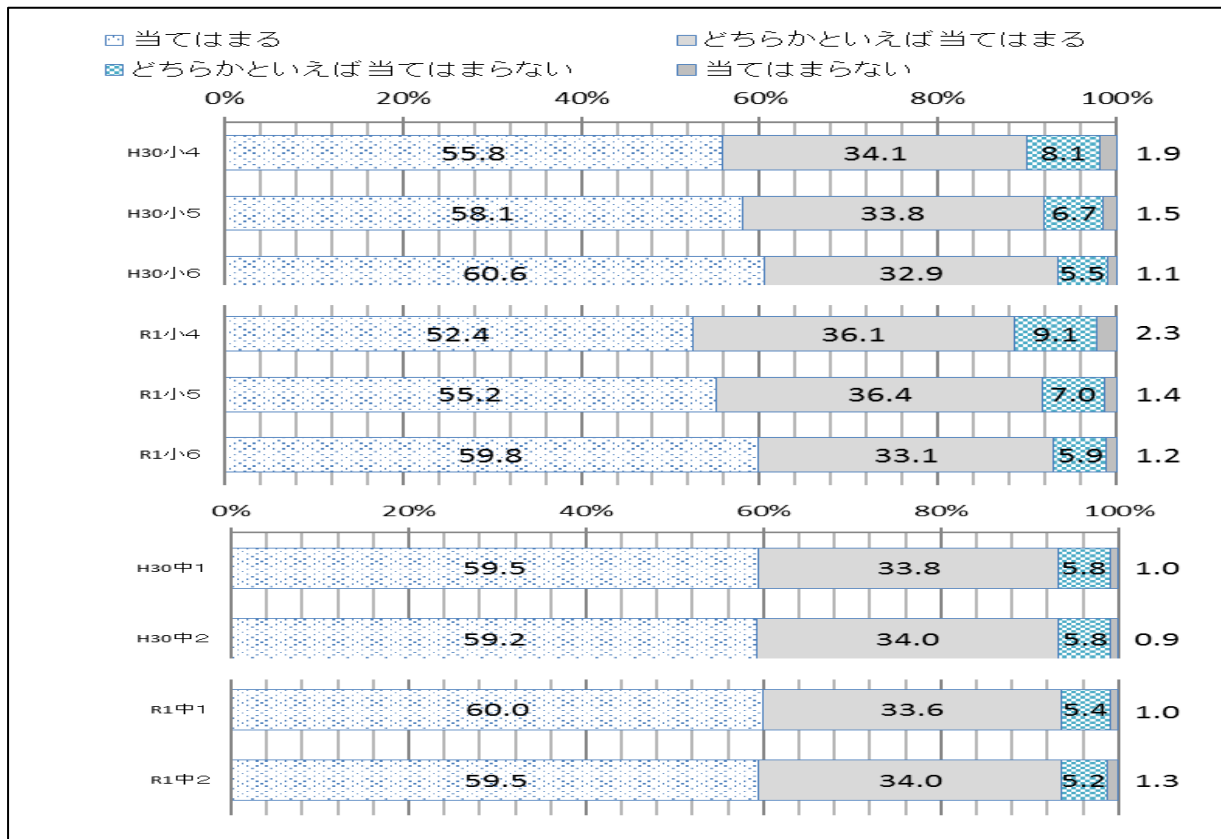
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



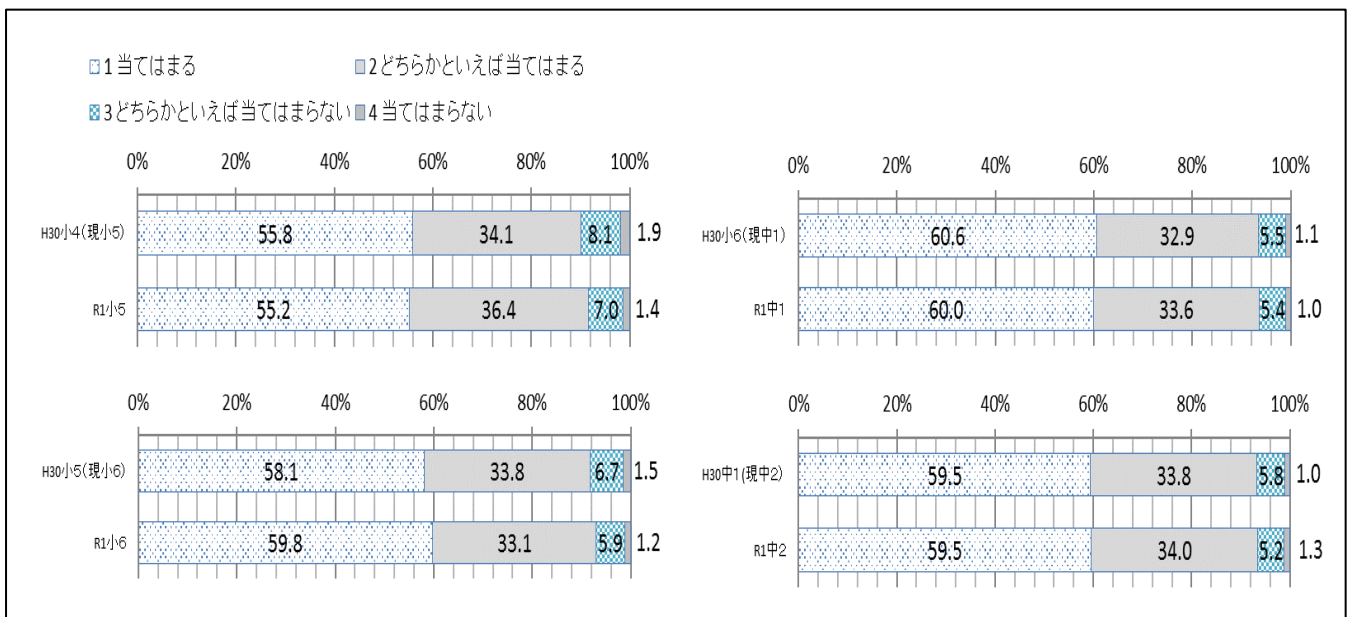
【質問6⑤】授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。

- △ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに前年度調査と比較すると、小・中学校とも、大きな変化はない。
- 肯定的な回答の割合を、同一の学年集団で比較すると、全ての学年で増加している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



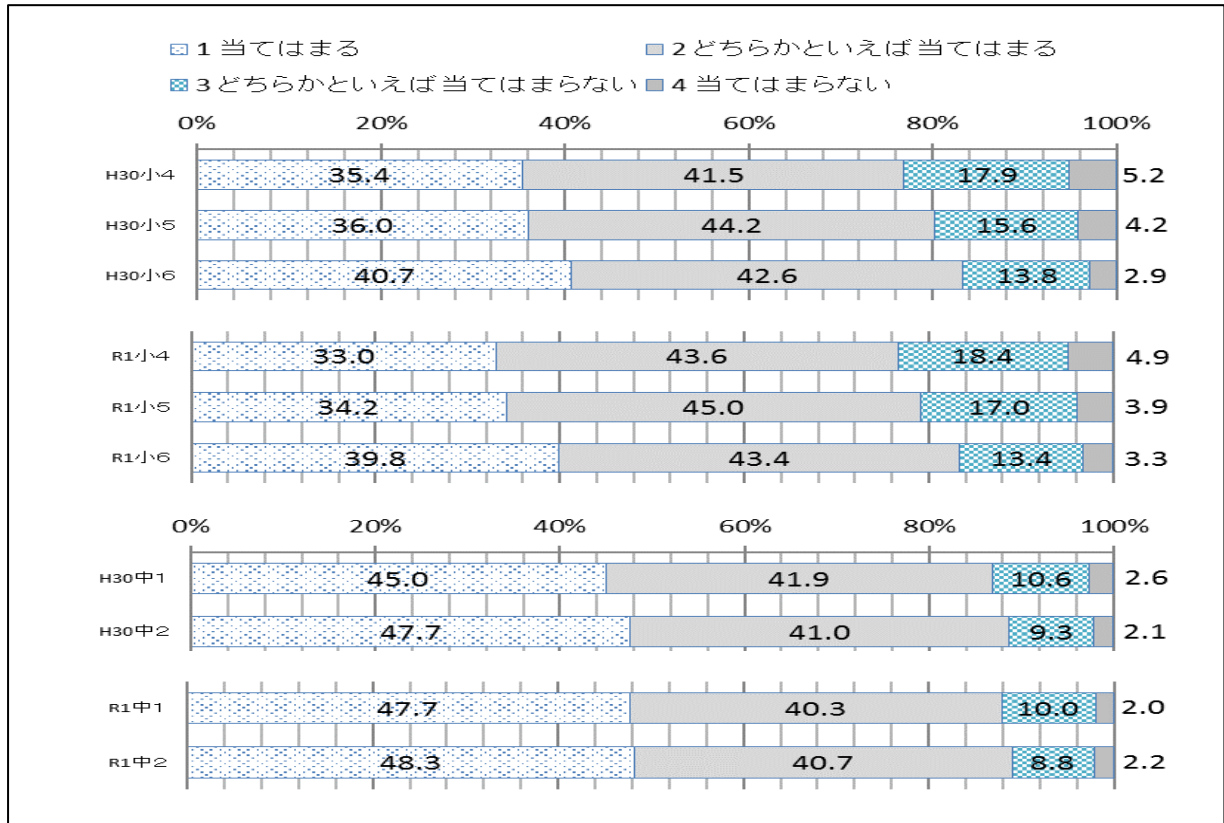
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



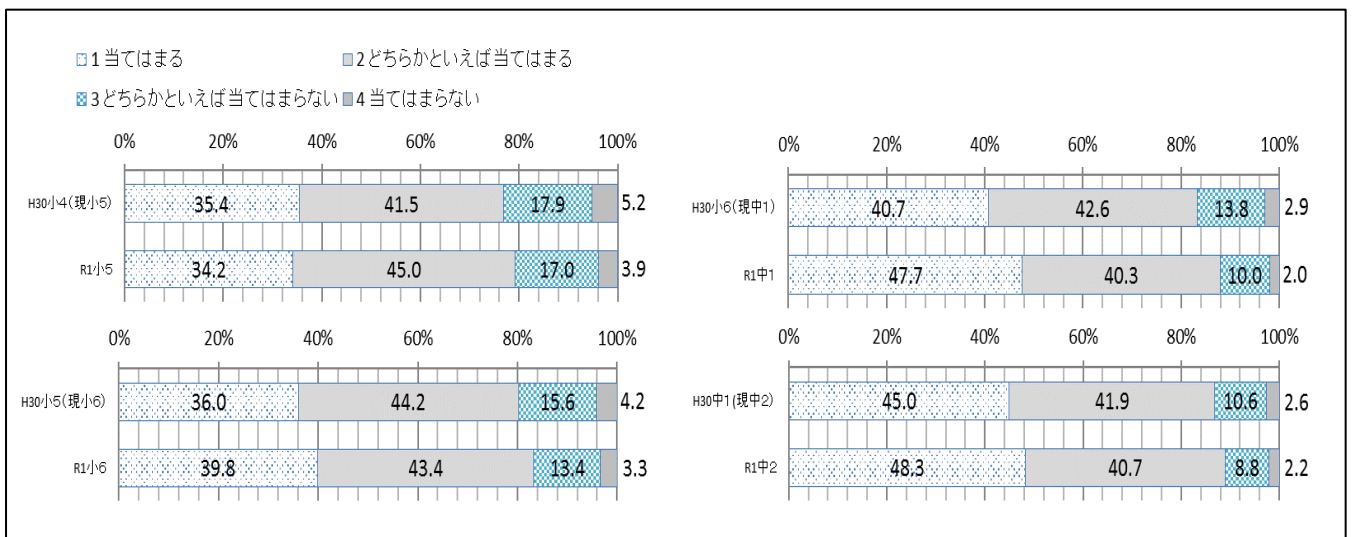
【質問6⑥】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

- 肯定的な回答の割合を、学年ごとに前年度調査と比較すると、小・中学校とも、大きな変化はない。
- 肯定的な回答の割合を、同一の学年集団で比較すると、小・中学校とも増加しており、特に小学6年生以上の学年において、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加している。

【前年度調査との比較（学年ごとの比較）】



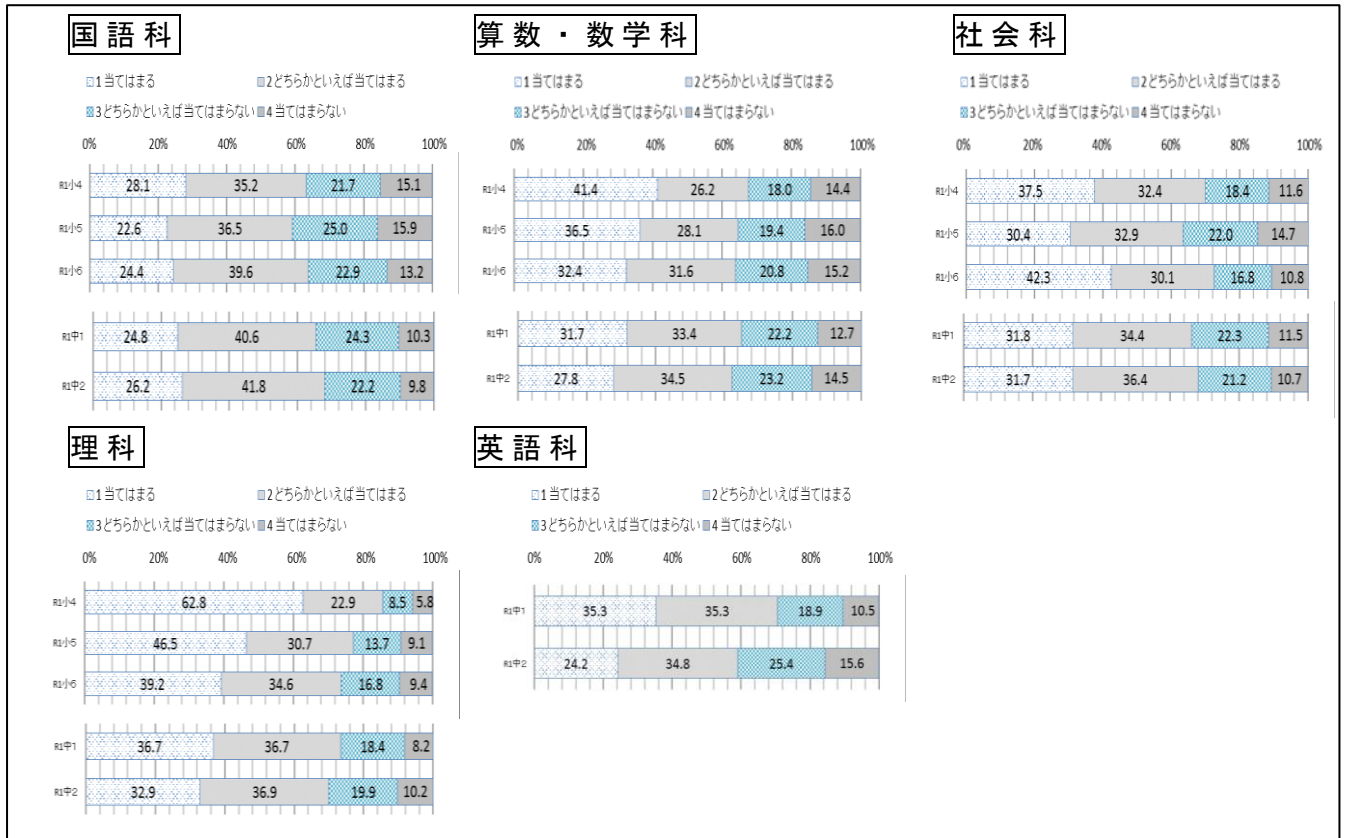
【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】



【質問6⑦～⑪】 各教科の勉強が好きだ。 ⑪は中学校のみ

- 算数・数学科、理科、英語科においては、学年があがるにつれ、肯定的な回答の割合が減少する傾向が顕著である。
- 国語科、算数・数学科においては、同一の学年集団で比較すると、中学1年生の国語科を除き、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が前年度から減少しており、学年が上がるにつれ、教科の学習が好きだという回答が減少している。

【今年度調査の結果】



【前年度調査との比較（同一の学年集団で比較）】

